

令和4年度

研 究 紀 要

第54号

徳 島 県 高 等 学 校 教 育 研 究 会

音 楽 部 会

目 次

I	令和4年度 徳島県高等学校音楽教育研究会及び研究協議会	1
1	講演	
2	研究授業	
3	研究協議	
II	全日本高等学校声楽コンクール徳島県予選	16
1	徳島県予選結果	
2	滝廉太郎記念 全国高校声楽コンクールに参加して	
III	徳島県学校音楽祭（器楽合奏の部）	18
IV	徳島県学校音楽祭（合唱の部）	21
V	令和4年度人権に関する児童生徒の作品	23
VI	実践報告	25
1	フレッシュ研修Ⅰを終えて	
2	フレッシュ研修Ⅱを終えて	
VII	会員寄稿	40
VIII	会員名簿	43

I 令和4年度 徳島県高等学校音楽教育研究会及び研究協議会

- 3 期 日 令和4年9月22日(木)
- 4 会 場 みなと高等学園 ハナミズキ棟3階研修室
- 5 講 演 講師 鳴門教育大学 准教授 山田 啓明 先生
演題 「私たちの音楽的能力をどう育ててゆくのか」
- 6 研 究 発 表 研究主題「広げよう 音や音楽の世界を」
発表者 名西高等学校 教諭 上原 慎太郎
～令和4年度全日本音楽教育研究会全国大会山口大会（総合大会）
第53回中国・四国音楽教育研究大会山口大会の発表に向けて～
発表内容「個性豊かな音楽表現を目指して
ー和声に着目した創作分野の実践を通してー」
- 7 研 究 授 業 発表者 みなと高等学園 教諭 吉田 美恵
題材 「ギターに挑戦！！」
- 8 指 導 助 言 者 鳴門教育大学 准教授 山田 啓明 先生
徳島県立総合教育センター 指導主事 上原 祥子 先生
- 9 司 会 者 城北高等学校 教諭 荒木 結香
- 10 記 録 者 川島高等学校 教諭 岸 直美
徳島商業高等学校 教諭 長町 美希
科学技術高等学校 教諭 東川 容子
城西高等学校 教諭 坂東 遥
- 11 伝 達 講 習 徳島県立総合教育センター 指導主事 上原 祥子 先生
「新学習指導要領のポイント」
- 10 日 程 13:00～13:20 受付・開会行事
13:30～14:10 講演
14:20～15:20 研究発表・協議・指導助言
15:30～16:30 研究授業・協議・指導助言
16:30～16:50 伝達講習
16:50～17:00 閉会行事

1 講演

私たちの音楽的能力をどう育ててゆくのか

鳴門教育大学 准教授 山田 啓明 先生

音楽教育の現場にいと、さまざまな学生たちに出会います。今日は、私の印象に残っている何人かの学生の思い出を話しつつ、みなさんと一緒に音楽の能力について考え、また子供たちの音楽的能力を伸ばして、音楽をしたい、音楽を楽しみたい、という彼らの夢を叶えるために、私たちに何ができるのか考えたいと思います。



まず一人目は、現在私の勤める大学の学生Aさんです。Aさんは自称音痴で、歌うことは好きなものの、一緒にカラオケに行った友人が認めるほどの音痴なのだそうです。実は新型コロナウイルス感染症が流行する以前、私は個人的な興味もあって希望する音痴の学生に矯正レッスンを行ってきました。コロナ流行後レッスンは休んでいましたが、久しぶりに再開することにしました。

いわゆる「音痴」にはいくつかのタイプがあります。ある本によりますと、歌詞がないと聞いている曲の聞き分けができない、正真正銘の音痴も数万人に1人位の割合でいるそうですが、私はまだ出会ったことがありません。Aさんの場合、最初の問題は極端に声の音域、つまり声域が狭いということでした。歌の声域が4度ほどしかなく、カラオケで歌いたいポップスなどは高すぎて歌えず、無理して歌っても出したい音に届くこともありません。それで混乱してリズムまで乱れ滅茶苦茶になりました。そこでまず、動物の鳴き声や犬の遠吠えの真似などをして、声域を広げるようにしました。それをしながら正確な音を自分で出せるように、声をコントロールする訓練もしなければいけません。

ところで、私たちは自分の出している声が、たとえばピアノの鍵盤で「ソ」と叩いた音と、果たして合っているのかどうか、どうやって判断しているのでしょうか。ここに集まっている先生方は、みんな音楽の訓練を受けていますから、絶対音感でも相対音感でも、たとえばピアノの鍵盤を叩いて音を取れるなど、あたりまえだと思われるでしょう。私ももちろんそう思うのですが、どうやら世の中そんな人ばかりではないようです。Aさんの場合、彼が出せる音域のピアノの鍵盤を叩いても、その通りの音が出るかは当たるも八卦、当たらずも八卦といった状態です。いままで何人もの音痴の学生を見ていて私が到達した仮説は、彼らは自分の出している声の高さが客観的に分かっていない、ということです。これはある意味仕方ないかもしれません。本来、人間にとっては聞こえてきた音がイヌの鳴き声なのか、雨だれの音なのか、ヴァイオリンの音なのかを判別することが大切であり、それは誰でもできます。しかし、ヴァイオリンやピアノ、トランペットで共通する音高のAやGを聞き分けるなどということは、いわば抽象的な能力です。音楽あるいは楽器が生まれる前の人類にとっては不要なものだったはずだからです。とはいえ、他人が出す音の高さに自分の声を合わせる能力は人間本来の力だと思います。私が小学生の頃、クラスで担任の先生が児童を点呼する際、「ナントカさん」、「ハイ」、「ナントカさん」、「ハイ」と、「ハイ」の音の高さが揃っていくのを面白く思った記憶があります。合唱で3度でハモらなければならないのに、主旋律に引きずられてユニゾンになってしまう

のも、やはり声の高さを合わせる自然な能力を持っていることのひとつの証左だと思います。ただ、全員というわけではない、ということでしょうか。話は脱線しますが、私は香川ジュニアフィルハーモニーオーケストラという、小学生から高校生までの子供が団員のオーケストラを指導しています。あるとき、弦楽器の分奏で第1、第2ヴァイオリンが主旋律を奏で、チェロが対旋律を奏でる場面を練習したことがあります。チェロはもともと人数が少なく、普段は大人の方が一緒に弾いてくれるのですが、その時は運悪くお休みで、小学生5年生位の男の子が一人で弾いていました。そうすると多勢に無勢で、チェロパートとは全く異なる旋律なのに引き摺り込まれて、そのチェロの子がヴァイオリンパートをオクターブのユニゾンで弾き始めました。「じゃあ一人で弾いてごらん」というと自分のパートをちゃんと弾ける。それではとヴァイオリンと一緒に弾かせるとどうしても引き摺り込まれてしまう。それ以外の伴奏の箇所ではそんなことは起こらなかったのに。私は人間のシンクロ能力にびっくりしてしまいました。

音感のある人と音痴の人とがユニゾンで歌う場合、音痴の人は自分の音程がズレているのは分かるようですが、合わせるためにどの高さで声を出せばいいか分かりません。その際に私がレッスンで行っている方法は、たとえばAさんならAさんが出している高さの声を、そっくりそのまま歌ってあげることです。いわば「鏡」となって、「あなたが今出している声の高さはこれですよ」と教えてあげます。最初はAさんの声を私が真似して、次は私の声をAさんが真似する、といった、いわばゲームを行いながら、様々な高さの声をAさんが真似をして出せるようにしてあげます。Aさんではありませんが、学生の中には2、3回この練習をただで正しい音程で歌えるようになる人もいます。男子学生に多いのですが、おそらく小さい頃は歌えたのに、変声期に自分の声のコントロールを失ってしまっ、その後元に戻れなくなっていたのだと思います。一度自分の声の高さの感覚を取り戻せば、あとは小さい頃に身につけた音程感にしたがって歌えるようになるのだと推測しています。

Aさんの場合はそう簡単ではありませんでした。週一回のレッスン以外に、自主トレーニングとして、ピアノの鍵盤を叩き出してきた音を真似する練習を一人でできるようにする必要があります。人の声だと難なく真似できるのに、楽器の音だと真似するのが難しい、という場合がしばしばありますが、これは慣れるしかありません。それから自分の声を客観的に聞きにくい場合には、左右どちらかの手のひらを電話するときのように顔の横にかざして、自分の声を手のひらに反射させて耳で聞く、という手段を用います。私たちは普段気がついてませんが、実は自分の声が体の中を伝わって耳に届く場合、若干音程が上がるか下がるか、忘れてしまいましたが、外に出ている声とは違うのだそうです。それを矯正するためにもこの方法は有効ですし、特に声が小さい人には自分の声を客観的に聞くためのよい手段となります。そうしながらAさんに自主トレーニングをしてもらったのですが、問題はAさんがドレミが分からず、当然ピアノの鍵盤上の音の高さもなかなか把握できないことでした。ですから、元々狭いAさんの声域では出せないような音をピアノで叩いて声を出そうとしても出るはずもなく、それに気づいて私が練習方法を修正するまで、彼は一人で間違った音を延々と出し続けていたことになります。1ヶ月半ほど週1回のレッスンを続けた結果、Aさんの声域は1オクターブ半以上に広がり、『となりのトトロ』の「さんぽ」程度なら、そこそこ恥ずかしくない程度には歌えるようになりました。Aさんが言うには友人とカラオケに行っても引かれることはなくなったそうです。Aさんをレッスンして思ったのは「やはりドレミとピアノの鍵盤は大事」ということです。スラスラと弾けなくても、楽譜を読めなくても、音感はなくともいいので、ドレミの順番とピアノの鍵盤の位置関係ぐらいは覚えておくとか何とか便利だと思います。それから英音名のCDEも覚えてほしいですね。コードネームもありますし、多くのスマホのアプリやチューナーなどもCDEを使っているので、小

学校でドレミと鍵盤の関係、そして中学校でC D Eを覚えてくれると、何か音楽を始めようと思った時に便利ではないかと思います。

私が教えている大学でも、ピアノの鍵盤とドレミの関係を覚えていない学生は結構な割合で存在します。コロナ禍以前、私は初等音楽という授業で最初に簡単な音楽のテストをしていたのですが、ピアノの鍵盤とドレミを一致できない学生は結構いました。これができないとピアノのレッスンになりません。実はソプラノリコーダーの運指とドレミを一致させるテストも同時にやっていたのですが、リコーダーの方が良い成績でした。最初私はその結果に驚いたのですが、小学校の先生に聞くと、鍵盤ハーモニカは普通小学校2年まで、3年生以降は子供に持たせる道具が増えるので、リコーダーしか持たせられないそうです。ドレミや譜読みが本格化するのは3年生以降ということですので、鍵盤とドレミが結びつかないのも当然かもしれません。ピアノの真ん中のドの位置しか分からないという学生もいました。他のオクターブのドが分からない。理由を聞くと先輩からY A M A H AのYの字を下に垂らした鍵盤をドだと教わったと言います。学生にはそんなこと絶対子供には教えてはダメだと伝えました。

さて、次にご紹介するのはもう10年以上前に中国から来られていた、現職の音楽の先生だった留学生Bさんです。太鼓をみんなで叩くゲームをしていた時のこと、リズムカノンでもやろうということになり、まず最初に簡単なリズムの模倣をみんなにしてもらいました。たとえばタンタンタンとかタンタカタンとか。学生はもちろん、以前幼稚園で試したときも特に問題は感じなかったのですが、Bさんは模倣ができませんでした。いろいろとゲームをするうちに、「それじゃあ一人一人自由に即興で叩いてみよう」ということになり、その場で発表してもらいました。Bさんの番になったとき、突然すごい勢いで太鼓を叩き出したのです。非常にカッコいい、複雑なリズムを正確なビートに乗って叩く様子に圧倒されました。じゃあ、さっきのは何だったの？ということになります。ひとつには私の説明が悪かったのかもしれないし、もうひとつにはリズムが簡単すぎる、あるいは「タンタンタン」とか「タンタカタン」といったリズムが彼のリズムのボキャブラリーに無かったのかもしれませんが。もう1つ考えられるのは、打楽器を叩くという動作の特性です。これは、小学校で打楽器を学ぶ際にソルフェージュ的なリズムの学習とセットで導入されるせいもあるのですが、日本の学校教育では打楽器の導入に際して拍子を叩くことから始めがちです。その後より自由に複雑なリズムへと発展すればよいのですが、どうかすると打楽器というと拍子を叩くことで終わらせてしまうことになります。あるいは「タンタカタン」や「タターンタ」などソルフェージュ的な、楽譜に書かれたり聞いたりしたリズムの模倣になってしまいます。しかし、打楽器の本来的な面白さは、何か出来合いのリズムを叩くことではないと私は思っています。両手が太鼓の上を自由に動く。あたかも即興でダンスを踊るがごとく、叩いて出た音に手が反応して次の音が出る。そういった動きの中から生まれてきたリズムの快感に浸るのが打楽器、太鼓の面白さだと思います。実際に幼児教育を学んでいる学生相手の授業で、ダンスのステップを踏むように、自由に太鼓を叩いてごらん、という次第に自由に叩けるようになってきます。ただし、そのためには両手が自由になっているコンガやジャンベのような太鼓でないと無理かもしれません。小学生がカスタネットで複雑なリズムを叩き出すには無理がありますし、タンバリンも持ち方によっては両手を使えますが、小学生には難しいかもしれません。先日学生から聞いた話ですが、京都のある学校では音楽室の椅子が全てカホンになっているそうです。子供達は普段からカホンに慣れていて、それは複雑なリズムで叩くので、実習でその学校を訪れた学生はびっくりしたと言っていました。

もう一人の例はCさんです。Cさんは当初指揮を勉強したいと大学院の私のゼミに入学したのですが、楽譜が読めないということでした。それでは指揮どころではない、まず楽譜を読めるように勉強して、自分の習得過程を論文にまとめてはどうかということで、彼と一緒に読譜の練習を始めました。実は私自身、若い頃はピアノの初見が大の苦手でした。芸大に入ってピアノの初見のひどさに周囲からあきれられ、ピアノの譜読みをしなければと思うと気分が滅入って、ピアノ初見恐怖症のような時期もあり、それを克服するために様々な努力をした経緯があります。現在でもピアノの初見が得意とは言えませんが、少なくとも恐怖症のようなものは克服できたかなと感じていますし、私自身のこれまでの経験を生かしてみたいという気持ちもありました。

Cさんは楽譜を全く読めない、という訳ではありません。小さいころピアノを習っていて、学部は大学のこども学科に在籍、ピアノが弾けない学生に楽譜の読み方やピアノの鍵盤の位置をド、レ、ミで教えていたというのです。彼はまた耳コピが得意で、聞いたメロディーをすぐに覚えて再現することもできましたし、またそこにコードをつけて即興で伴奏することもできました。実はCさんが楽譜を読めない理由のひとつがここでした。幼少の頃のレッスンでピアノの先生が最初に必ず模範演奏をしてくれていたのだそうです。Cさんはその模範演奏を耳コピすることでレッスンをこなしていたので、楽譜を読む習慣がつきませんでした。実際、彼の耳の良さ、音感の良さは素晴らしいものでありました。私の大学で学部生の合唱の授業があり、学部生がひとりずつ指揮台に立ってクラス合唱の指揮と指導を行うのですが、男声が足りないので私も男声パートを歌い、Cさんにも手伝ってもらいました。この年の合唱の授業にはもう一人学部の男子学生がいて、私が真ん中に立って3人で同じパートを歌っていたのですが、楽譜が読めないはずのCさんの歌は完璧で、もう一人の学生がたびたび歌い間違えるのに対して、私の歌声にピッタリと寄り添って正確に男声パートを歌ってくれます。これには私もびっくりしました。皆さんもお気づきでしょうが、私の歌をシャドウイングによって同時にすっかり真似して歌っていたのです。そんなCさんだったので、適切に指導すれば次第に楽譜を読むのも早くなり、ピアノの初見もある程度はできるようになるだろうと思っていました。しかし、その考えは甘かったのです。

彼の初見の練習に最初に使ったのは、マニュエル・プラティックというフランスのクレフ読みの訓練のための楽譜で、高音部記号、低音部記号、アルト記号からバリトン記号まで7つの音部記号を読めるようにするためのテキストで、現在でも学部のソルフェージュの授業で使用しています。内容を簡単に説明すると、たとえば小節線のないアルト譜表上に4分音符がランダムな音高で並んでいます。最初の課題では音符、つまり音の種類はドとドとドとソと4つしかありませんが、次第に隣接する音を増やし、読むスピードを上げて音部記号に慣れさせる、という仕組みです。この教材でこれまでも一定の成果をあげていましたし、Cさんの場合は高音部譜表と低音部譜表を、まずは読めるようにしようと、高音部譜表の練習から始めました。しかし結果は惨憺たるものでした。Cさんはとつとつと読むだけならば、「ド、ラ、レ、シ…」のように読むことができました。ところが、ある一定のテンポ、たとえば1分間に60位という風にすると、途端に読めなくなってしまいます。そして数ヶ月。マニュエル・プラティックの個々の課題自体は非常に短く、音符はランダムといってもやっている間に覚えてしまいそうなものですが、彼は最初の4曲あたりから先に進むことができませんでした。また簡単な童謡の旋律をピアノで初見演奏する、歌う、ということもできません。もちろん、私が弾いて見せればCさんはたちどころに覚えて弾くだけではなく、伴奏だってつけられるでしょう。しかし、どうやらCさんの場合、旋律の全体像がゲシュタルトとして把握できないかぎり、旋律を覚えられな

いようです。彼がとつとつと初見で音符を弾いても旋律のゲシュタルトは見出せません。普通は何回か繰り返し練習すれば「ああ、こんな感じなんだな」と旋律の全体像が理解できます。彼はそこに到達することなく、何度やっても最初の譜読みから進歩することができませんでした。そして、レッスンを続けて日が経つうちに彼は憔悴していきました。間の悪いことに、秋に附属中学校で院生たちの出前演奏会のイベントがあり、その出し物として、Cさんは以前弾いたことのあったエレキベースを任され、『情熱大陸』のベースパートの楽譜を渡されたのです。『情熱大陸』の譜読みは彼個人の問題とみなして、私は関与しませんでした。私の譜読みのレッスンに加えてこの課題は重荷だったようです。1ヶ月近く練習しても全然弾けるようにならなかったそうです。そして彼は目に見えてノイローゼ気味になり、しまいには幽霊のような幻覚をみるようになってしまったので、私はレッスンを中止し、彼を休ませることにしました。とはいえ『情熱大陸』の本番は迫ってきます。夏休み中練習しても弾けるようにならず、追い詰められたCさんにアイデアがひらめきました。彼はもらったベースパートの楽譜をそのままパソコンの楽譜作成ソフトを使って書き写し、それを再生したのです。それを聞いた結果1回で弾けるようになったと後日報告してくれました。そのときの彼の感想「オレって何なん？て思いました」という言葉を今も覚えています。

以上お話したような経過に直面して、私の心に浮かんだのはディスレクシアという言葉です。日本語で言うと識字障害。文字を一つ一つなら読むことができるが、それを文章として一定のスピード以上で読むことに困難を感じる、学習障害の一種です。日本語や英語など言語上のディスレクシアは知られていますが、音楽上のディスレクシアというものもあります。私の知る限り日本語の文献はありませんが、英語の文献は出ています。ただ、そこで紹介されている音楽上のディスレクシアの症例では、もともとその他の音楽上の能力、旋律の記憶力などに問題がある例が多く、Cさんのような読譜能力以外の面で優れた能力をもった人のディスレクシアは見出せませんでした。

それはともかく、Cさんの修論は書きあがったものの悲劇的なものでした。本来、いかに自分が譜読みできるようになったかを書くはずだったのが、いかに譜読みができるようにならなかったのか、という結論になってしまったのですから。修論の中間発表では聞いていた同級生の女性の現職の先生が泣き出してしまったのを覚えています。

実はCさんには後日譚があります。彼が修論をほぼ書き終え、提出を控えたゼミの席上、実は僕、ドレミが分からないんです。と言い出しました。私はびっくりしました。たしかに彼はそれまでのレッスンでも知っているメロディーをドレミで歌えませんでした。ただ、それは多くの音楽科の学生でも見られることで、私は大して深刻なことで受け止めていなかったのです。しかし、彼が続けて話してくれた内容は衝撃的でした。学部時代に大学の授業でコンコーネ1番が期末試験の課題に出されたそうです。旋律は授業で何度も歌っていたので、Cさんはすでに覚えていましたが、この旋律にドレミをつけて歌うことに非常に困難があり、覚えるのに苦労したのだそうです。どうやら彼はドレミがチンプンカンプンでしたが、音符や鍵盤にド、レ、ミ、とゆっくりならつけられました。ただ、それはバラバラな知識であって、ドレミファソラシドの順序の感覚が彼の中には無いらしいのです。ご存知のようにコンコーネ1番の冒頭は単純にドレミファソラシドレミと音階を上昇するだけです。彼はこれを覚えられないというのです。これには仰天すると同時に「もっと早く言ってよ」という気持ちになりました。かといってCさんに「ドレミ感」をつけることができたかどうかは自信がありません。そう、私はこれ以後「音感」とは別に「ドレミ感」という言葉を自分で作り、ことあるごとにお話すると同時に指導している学生にドレミ感がつくように指導しています。

とはいえ、ドレミ感なるものが普通、音感と独立して存在しうるかどうかは疑問が残ります。先ほ

どもお話しした通り、私は初等音楽という授業を担当し、そこで小学校の歌唱共通教材の弾き歌いの指導もしています。『うみ』の指導をしていると、前奏をドレミで歌わせる場合があります。当然楽譜を読めない学生もいるので、「シラソシシシレドドシラソ」とドレミを楽譜に書き込ませるのですが、何人かの学生は「シラソシシシレドドシラソ」と歌ってしまいます。おわかりのように歌の旋律で前奏のドレミを歌ってしまう訳ですが、こんな学生が毎年数名はいます。残念ながらそんな学生に特別に階名唱を訓練する時間はありません。幸い、コロナのおかげでビデオ教材をオンデマンドで用意することができますが、実際学生が利用しているかどうかは定かではありません。一方幼児教育の授業も担当していて、その授業では階名唱の重要性を学生たちに説くとともに、ドレミで童謡を歌わせています。

Cさんのように楽譜が読めなくてもポピュラー音楽の世界ではプロとして活躍しているミュージシャンが沢山います。私自身、ブルースやロックなどアメリカのルーツミュージックのビデオが好きで、DVDを見るのが趣味なのですが、そこではミュージシャン同士が楽譜なしで「ここはどう？」なんて言いながら皆で曲を仕上げていく場面を見ることができます。音楽科教育というものが楽譜から脱却できていない現在において、私のゼミにきた彼の運が悪かったというべきでしょうか？実のところヨーロッパ中世の音楽史を繙くと、大量のグレゴリオ聖歌を覚えることができないために音楽教育が始まり、楽譜が発明され、ドレミで歌うソルミゼーションが開発されました。私は授業でこの話をするとともに、学生たちには楽譜やドレミというのは音楽を覚えるのが苦手な人たちのための補助手段だったのであって、音楽が得意な人たちのためのものではなかったとすることにしています。楽譜が発明される以前だったら、Cさんは音楽の天才だったろうし、重宝されたことでしょう。

またCさんと話をしていて印象に残っているのは、聞き覚えだとは思いますが、ブルグミュラーはすぐに覚えられたけれども、バイエルは覚えにくかった、という言葉です。一見、バイエルの方が曲は単純だし、旋律や伴奏もパターン化されているので覚えやすく弾きやすいように考えがちですが、言われてみればブルグミュラーの練習曲の旋律は性格をはっきりしていて、とても魅力的な、音楽的な旋律です。彼のように音楽を全体として、ゲシュタルトとしてではないと受け入れられない人にとって、ことにパターン化された動機が組み合わさって曲が出来上がっているクラシック音楽は受け入れがたいだろうなと感じました。

ここまで私が出会った、興味深い3人の学生の話をしてきました。もちろん、3人以外にも様々な学生が入学して来ます。私たちの尺度でみて優秀な学生もいれば、そうでない学生もいます。とくに大学院生の中には、なぜ音楽科に来たのかと聞きたくなるような学生もいます。Cさんと同じように楽譜を読むことが苦手だったり、楽典の知識が全然なく、学部生と一緒に授業を受け、危うく不可になりそうになったり。ただ、私たちが音楽科の中で要求している能力は、音楽能力全体の中の一部に偏っているのかもしれませんが。今ここでお話ししているのは西洋音楽に限定していますが、その西洋音楽の分野においても、楽譜やドレミなどを必要としないジャンルはあるでしょう。コンピュータによる音楽が普及していくにしたがって、その範囲はこれから急速に広がってゆくでしょう。

大学院に入学してくる学生には一見とんでもない者もありますが、彼ら一人一人は音楽を愛していますし、また自分の音楽能力に対する自信と不安の間でゆらいでいます。彼らの多くが幼少期や小・中学生の時代に音楽に触れ、そこで音楽における万能感を知っています。音楽における万能感、ここにおられる皆さんもそれを知っていることと思います。子供のころに何か楽器を操るなりして、それがうまいって瞬間の快感は他の何にも変えがたいものがあります。おそらくスケボーなどを操

るのと同じスポーツ的な快感と同種でしょうが、そこに音楽が入ってくる分、その万能感や快感は余計に強いものではないでしょうか。ただし、年をとって経験を積むにつれ、自分よりずっと上手な他人の演奏に触れ、また自分の下手さ加減を思い知って、音楽から疎外感を感じてしまいます。しかし、昔感じた万能感を忘れることはできませんし、また自分の中の音楽への信頼あるいは自信を消すことはできません。私自身も一緒です。こんな話をすると、ある学生は「音楽なんかやるんじゃないかった。」と言いました。音楽はときに苦しみや絶望も与えてくれますが、それ以上に喜びや生きる力を与えてくれます。

ドレミはわかるが楽譜はダメという、そういう生徒は結構います。僕は楽譜は読めなくてもいいんじゃないかなと思います。ドレミがわかってくればと思っています。



2 研究授業

音楽科学習指導案

授業日時：令和4年7月15日2校時

対 象：11・12 HR 音楽選択者 4名

場 所：音楽室

指 導 者：T1 吉田 美恵 T2 西 直子

1 題材名「ギターに挑戦！！」

2 題材の目標

- (1) 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) リズムや旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことを感受したこととの関わりについてどのように演奏するかについて表現意図をもつ。
- (3) 奏法による音色や響き、表情などの違いが生み出されることに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

3 教材

MOUSA 1 p. 36～39

「日曜日よりの使者」 甲本 ヒロト 作詞・作曲 長谷部 裕介 採譜・編曲

4 題材について

(1) 生徒の実態

本クラスの生徒は商業ビジネス科男子2名、情報デザイン科男子2名、計4名1年生の音楽選択者である。本校は高等部のみの特別支援学校であり、商業情報部の教育課程は高等学校に準ずる教育課程である。普通教科に加え、商業や情報の専門科目も学んでいる。自閉症スペクトラム等の発達障がいと適応障害や不安障害などの精神病弱の診断を受けている。「集中の困難さ」「指示理解の難しさ」「コミュニケーションの苦手さ」「場の空気の読みづらさ」「字義通りで冗談がわかりづらい」などの特性がある。また、初めてのことや苦手なことに極度の不安を持ち学習活動に参加することに困難を抱える生徒も多い。しかし逆に「記憶力が優れている」「好きなことへの集中力」「決められたことに対して確実にやり遂げることができる」などの強みも多く持っている。本クラスの4名の実態も一人一人違うが、音楽への興味・関心が非常に高く、歌唱、器楽、鑑賞の学習において、積極的に取り組むことができる。好きな音楽についてもクラシック、洋楽、ポップス、ロック、アニメなど幅広く、自分の好きな曲を紹介する「おすすめの曲紹介」の時間を楽しみにしている。今まで学習したことのない音楽や楽器についても「知りたい」「触ってみたい」「弾けるようになりたい」という強い関心と学習に対する意欲が強く見られる。多くのことを経験し、自身を持って活動できることを増やして欲しいと思っている。

（２）教材について

楽器についても「弾いてみたい」「弾けるようになりたい」という気持ちが強い。本題材ではあこがれのギターに挑戦する。「日曜日の使者より」は生徒たちも聞いたことのある曲であり、「気持ちが沈みそうになっている時に背中を押してくれる応援ソング」に感じられ、親しみやすいメロディですぐに歌うことができた。また、ギターを始めるにあたり、コードがC、G、Dの３つで比較的鳴らしやすく、達成感も味わいやすい曲である。そして、奏法によって音色や響き、表情などの違いも感じ取らせることができる。できるようになったことが実感でき、他のコードや楽曲も弾いてみたいという思いが生まれることにも期待したい。知識・技能を習得することで将来の余暇活動の幅が広がって欲しいと期待する。

（３）指導にあたって

ギターはあこがれが強く身近な楽器であるにも関わらず、始めるきっかけや弾き始めるための準備がわからないと言う生徒が多い。「こうすればいいんだ」「なるほど」「これならできるかも」と思って欲しい。本題材では「ギターでコードが弾ける」ことを目標として学習を進めていくが、障がいの特性上、理解の仕方や集中力、体の使い方に課題のある生徒もいる。ギターの特徴やチューニングについて、確実に理解ができるように生徒の実態に応じてスクリーンやワークシートを使って丁寧に説明する。教科書に示されているコードネームだけで演奏することが難しい生徒には、色分けしたり押さえる指を示したり、本人にわかりやすいダイアグラムを用意する。使っていく中で自分が使いやすい物を選択できるようになって欲しい。自信を持って活動できるように少しずつできるようになったことを見逃さず評価することを意識する。また、項目を細かく分けた評価シートで生徒自身ができるようになっていくことを感じ取ることができるようにしていく。ギターの学習の前にはキーボードを使って音名やコードやキーボードでコードの構成音とメジャーとマイナーの違いについても学習をした。楽譜に示されているアルファベットが何なのか、そのアルファベットが何の音を示しているかの学習をしたときに「へ～。そうなんだ」という感触を得ることができた。響きと構成音の関係性が理解できた上でギターを学習することは興味を関心をさらに深めながら学習できると考えた。先にも述べたが、本クラスの生徒は「知りたい」「できるようになりたい」という意欲も強く、リズム感も音感も良い。ギターが弾けるようになることで音楽がよりいっそう身近になり、主体的に表現する態度を養うことができると考え本題材を設定した。

５ 学習指導要領との関連

A 表現 表現に関する資質・能力を次のとおり育成する

（１）器楽

器楽に関する次の事項を身に付けることができるように指導する

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ（イ） 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解すること。

ウ（ア） 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけること。

[共通事項] (1)

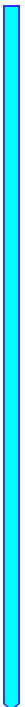
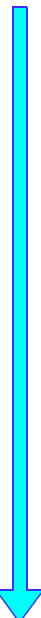
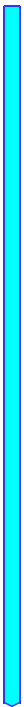
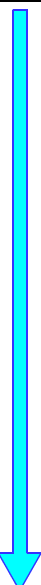
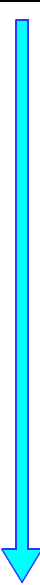
(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」「音色」「テクスチャ」)

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知] 「日曜日よりの使者」の曲想と音色や奏法との関わりについて理解している。 [技] 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。	[思] 「音色」を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。	[態] 奏法による音色や響き、表情などの違いが生み出されることに興味をもち、主体的・協働的に学習に取りもうとしている。

7 指導と評価の計画 (本時 5 / 6 時間)

時	教 材	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価 (◆評価方法)		
			[知]・[技]	[思]	[態]
① ②	◎ ギターの奏法による音色や響きの違いを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、ギターの音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりについて知るとともに、ギターの音色や奏法への関心をもつ。				
	MOUSA I i p a d スクリーン ワークシート チェックシート チューナー ギター	● ギターの音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ・「日曜日よりの使者」の伴奏を聴き、ギターの音色や奏法等について、気付いたことや感じ取ったことを共有する。 ● ギターの構造や特徴、奏法について学習する。 ・姿勢と構え方を確認したり、開放弦とチューニング、ポジションについて質問に答えたりワークシートに記入したりしながら学習する。 ・実際に音を出しながら、チューニングについて理解する。			
③ ④	i p a d スクリーン ワークシート チェックシート チューナー	● 弦の押さえ方やストロークに挑戦する。 ・開放弦とチューニングの復習を行い、p.37 STEP1 STEP2 のダイアグラムの見方をワークシートに記入して確認する。 ・フレットと弦の一を確認しながら個々の			

	ギター	ペースに合わせて p.37 STEP1 STEP2 とすすめていく。	◆観察		
⑤	◎ ギターの奏法による音色や響きの違いを生かし、「日曜日よりの使者」をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。				
	i p a d スクリーン ワークシート チェックシート チューナー ギター	●「日曜日よりの使者」の旋律に合わせて、C、G、Dの3つのコードのうち1つのコードをダウンストロークで弾く。 ・「日曜日よりの使者」を歌唱し、曲全体の雰囲気や音楽の流れを共有する。 ・「日曜日よりの使者」の3つのコードについて復習する。 ・自分のイメージに合った音色が出せるように、手の形や押さえ方に気をつけて1つのコードをダウンストロークで弾く。 ・p.39の譜例1・2を用いて、旋律に合わせてコードを弾く。 ・振り返りを行い、次時に向けての課題をもつ。		 ◆観察 ◆動画	
⑥	◎ ストロークの違いによる響きの違いを感じ取り、自己のイメージに合ったストロークで「日曜日よりの使者」を演奏する。				
	i p a d スクリーン ワークシート チェックシート チューナー ギター	●3つのストロークについて学習する。 ・p.39の譜例1～4でストロークの種類を知り奏法によっての響きの違いを感じ取る。 ・「日曜日よりの使者」の一部を、3種類のストロークで演奏し、響きの違いについて共有する。 ●選択したストロークを取り入れ、曲の雰囲気に合った演奏をする。 ・録画し、ストロークの違いによる響きやイメージに合った演奏をするための奏法について確認をする。 ・題材の振り返りをする。	 ◆観察 ◆ワークシート		 ◆観察 ◆ワークシート

8 本時の学習

(1) 目 標

・ダウンストロークの音色を生かし、「日曜日よりの使者」の雰囲気合った演奏を工夫する。

(2) 展 開

学習活動	指導上の留意点		◇評価規準◆評価方法	要素
	T1	T2		
1. 本時の授業内容 と学習目標を確認す る。	・あらかじめボードに 本時の学習内容を示して おき、目標・評価シート で1つ1つ確認する。	・説明や確認に注目 するように促す。		
2. 「日曜日の使者」 の歌唱	・曲想や表現について復 習をした後、歌いやすい 雰囲気を作りながら、一 緒に歌う。	・生徒が安心して歌 えるよう一緒に歌 う。		旋律
3. 前時の復習	・スクリーンにダイヤグ ラムを映し、チューニン グと音のポジションの確 認をする。	・スクリーンに注目 するように促す。		
4. コード構成音に ついて復習	・生徒の解答をポジティ ブに評価し、発表に自信 が持てるようにする。迷 った場合はヒントを出す。	・生徒の解答をポジ ティブに評価し、発 表に自信が持てるよ うにする。		テクス チャ
「日曜日よりの使者」の曲の雰囲気合った演奏をしよう。				
5. 「日曜日よりの 使者」のに使われる C, G, Dの3つの コードをp.39の譜 例1・2を参考にダ ウンストロークで弾 く。	・指のポジションの説明 をしながら、手本を見せ る。 ・楽譜やダイヤグラムを 正しく見ることができ ているかを確認する。 ・ダウンストロークの響 きの特徴を伝える。 ・きれいに音が響いていないときには、手の角 度や押さえ方などをアドバイスする。	・楽譜やダイヤグラ ムを正しく見るこ とができているか、音 が鳴っているかを確 認する。	◇創意工夫を生かした 器楽表現をするため に必要な曲にふさわ しい演奏法、身体 の使い方などの技 能を身につけて いる。 技 ◆観察 ◆動画	音色 テクス チャ

6. 3つコードの中から担当を1つ決め「日曜日よりの使者」の旋律に合わせてp.39の譜例1・2を用いて、弾く。1つが簡単にできる生徒は2つ目3つ目に挑戦する。	・どのように弾くと曲に合った表現になるか、例を示しながら考えを引き出す。 ・音を鳴らすタイミングがわかるように担当のコードを引く直前に言葉かけする。	・答えづらそうにしている生徒に発表を促す。 ・一緒に歌いながら、難しそうにしてある生徒に楽譜の指さしや励ましの言葉かけをする。	
7. 振り返り	・できたことや頑張ってきたことを評価し、個々の課題も伝え、今後の学習へのつながりを伝える。	・できたことや頑張ってきたことを具体的に評価する。	

(3) 評価及び指導（手立て）

A（十分満足できる）と判断される具体的な状況	・「日曜日よりの使者」を、ダウンストロークの音色を生かし、曲の雰囲気合った演奏の工夫ができる。
B（おおむね満足できる）状況を実現するための具体的な指導（手立て）	・コードごとに色で区別し、押さえる指を示したダイアグラムを示す。 ・音を鳴らすタイミングがわかるように担当のコードを弾く直前に、言葉かけする。

3 研究協議

授業者より

この1時間で指導案に書いたことをこなさなくてはと焦ってしまい、生徒たちが思っていることを聞く前に「こういうこと」と自分から言っている場面が多かったように思います。言葉に出すのが難しい生徒たちなので、ヒントを出すなどして生徒の思いやしたいことの表出を待てばよかったと思っています。

ギターの前にキーボードで演奏しました。押すとすぐ音が鳴ることもありスムーズにできたので、ギターもできるのではないかと、コードチェンジをしながら3つのコードくらいなら弾けるのではないかと考えました。しかし、いざ始めてみるとコード弾きは難しく、コードチェンジが特に難しかったので、途中で目標を切り替えました。みんなができたという達成感を持ち一つの曲を仕上げた方が、成功感も感じられるのではないかと考え、目標変更しました。

「曲に合った演奏」と目標を立てました。生徒たちはイメージを持っていたかもしれませんが、体の使い方がうまくできなかつたり、時間が足りなかつたり、説明不足だつたりしたことその目標が

達成できていないのか、目標がもっと具体的であった方が良かったのか等、先生方に教えていただきたいと思います。また評価にはワークシートや観察等いろいろあります。日頃授業でどのように行っているのか教えていただきたいです。曲に合った表現は、本当にイメージして感じているかもしれませんが、評価しづらく、それをするのはある程度の知識・技能が必要で、1時間毎に生徒や私たちができていると評価するにはどういう風にしたらよいか教えていただきたいと思います。

協議内容

参加者 1 支援学校に勤務していた時、トーンチャイムで和音を作った。3つのチームに分かれ1つのコードだけを各チームが演奏するという内容で授業をしたことがあったので、懐かしく感じながら授業を見させて頂いた。

参加者 2 先生がギターが上手なので、よい音を聞かせたら生徒もやりたくなるだろう。いい音を先生が鳴らすのは大事だなと思いつつ授業を見た。授業ではコード移動が難しく、3つのコードくらいで弾ける曲を選ぶ方法はいいなと思った。教科書によってGコードの小指を抜いたりするものもあるが、弾かない弦を作るのは難しく、どう指導するのがよいか、どうするのがギター指導の1番いい形なのか迷っていたので、一人に1コードとコード分けをするのはいい案だと思った。

参加者 3 同じ教科書を使用している。自分の行っている学校はクラシックギターなので右手や旋律から練習している。旋律の時アポヤンド奏法やアルアイレ奏法できれいに押さえること、人差し指から順番に使うことをやっているが、コードになると全く別世界でいつも生徒もそこで戸惑う。クラシックギターの方がネックが太くて、フォークギターの方が押さえやすい。女子は小指で押さえるのが苦手でGが難しく、違う指を使うとCにチェンジする時やりにくかったりするので、コードの授業はいつも難しいなと思っている。男子4人だけでしっかりと押さえ、いい音を出していたので楽しくコードの授業ができているのだろうと思う。また今の生徒たちは拍子を分かっているようで分かっていないので、CやGの担当を決めてするが難しい。楽しくしているが、いいアイデアがあれば、他の先生方から教えて頂きたいと思った。

参加者 4 ギターは前任校でしていた。自分は弾けないので先生がお手本を見せるのはすごいと思った。自分自身コードチェンジをするのが難しいので、生徒と一緒に苦戦しながらしていたが、今みたいに3グループに分けてするとみんなで1曲をでき、達成感も感じられるのでこのように取り入れたらよかったと思った。評価については自分自身が悩んでいるが、個人で自己評価を書かせても人によって感じ方が全く違うので、すごくできていると思う生徒でも自己評価を低くつけたり、適当に書く生徒もいて自己評価では評価できないと思っている。30人いると一人一人を見るのは難しいと感じている。



Ⅱ 第31回全日本高等学校声楽コンクール徳島県予選

1 徳島県予選結果・講評

日 時 令和4年8月19日(金)
 会 場 石井町中央公民館 藤ホール
 徳島県代表 毛利 心馨(徳島県立城ノ内中等教育学校4年)
 出 場 者 (プログラム順)

氏名(学校・学年)	課題曲	自由曲	ピアノ伴奏
毛利 心馨 (城ノ内中等教育学校4年)	秋の月	L'ultima canzone (Tosti 作曲)	松下 桜
十河 日向子 (名西高等学校2年)	荒城の月 1・4番	Caro mio ben (Giordani 作曲)	石川 宏美
吉兼 由椰 (名西高等学校2年)	荒城の月 1・2番	Voi che sapete (Mozart 作曲)	石川 宏美
三笠 梨花 (名西高等学校2年)	荒城の月 1・2番	Caro mio ben (Giordani 作曲)	石川 宏美
橋本 千桜姫 (名西高等学校3年)	納涼	Vedrai, carino (Mozart 作曲)	上原 慎太郎
樋口 七海 (名西高等学校3年)	秋の月	Convien partir (Donizetti 作曲)	宮本 花
樋口 莉奈 (名西高等学校3年)	納涼	Ah! non credea mirarti (Bellini 作曲)	上原 慎太郎
常陸 結衣 (小松島高等学校3年)	納涼	Nina (Pergolesi 作曲)	常陸 和映
鎌田 智江 (富岡西高等学校2年)	荒城の月 1・3番	Le violette (Scarlette 作曲)	上原 慎太郎

講 評 徳島県立城北高等学校 教諭 荒木 結香

出場者が9名から4名となり、本番の時間が当日変更になる等、コンクールのステージに立つまで大変だったと思いますが、そんなことを感じさせない堂々とした歌を聴かせていただきました。

審査をしてくださった先生方のご意見も含めて講評を述べさせていただきます。

今回出場した生徒の皆さんの声が、「素直できれいな声である」とほとんどの審査員が書いていました。これは何よりの褒め言葉であると思います。くせのない素直な声で歌うことは基本です。「低音は響くけど高音が…」、「高音は響くけど低音が…」ではなく、低音から高音まで響きが均一になるといいですね。そして腹式呼吸を意識して、最低音から最高音まで息の流れを感知して豊かに歌ってください。その上で f (フォルテ) p (ピアノ) 等の強弱の表現が楽譜どおりに表現できるともっと聴き手に伝わってくると思います。

次に発音についてですが、イタリア語がカタカナ的な発音になっている、イタリア語の歌詞の意味

を理解して歌っているのかと指摘されている先生が多かったです。まずは、イタリア語を音読して、アクセントの位置を認識しましょう。そして、歌詞の意味を理解して歌ってみてください。きっとより深い表現ができると思います。地道な練習を重ねて、歌詞を伝える努力をしてください。また、歌詞を伝えようとすると顔の表情も大切になってくるとと思います。悲しい歌、楽しい歌、愛の歌、怒りの歌等、歌い手がどんな表情で歌っているのか一目瞭然です。豊かな表現を心がけましょう。

その他にも審査員の先生方がそれぞれの生徒の皆さんの講評に書いて下さっていますので、参考にしてください。

コンクールのステージで歌ったから終わりではありません。この経験を活かして、これからも日々の練習を大切にして、昨日の自分より少しずつ成長していきましょう。

皆さんの歌を再び聴かせていただくことを楽しみにしています。

2 全国大会参加寄稿

「第76回 瀧廉太郎記念全国高校生声楽コンクール」に参加して

徳島県立城ノ内中等教育学校 4年 毛利 心馨

10月14日～16日に大分県竹田市で開催された、第76回瀧廉太郎記念全国高校生声楽コンクールに出場しました。私はこの大会に参加することを目標のひとつとしており、高校1年生で出場することができてとても嬉しかったです。とてもきれいで、よく響く素晴らしいホールで歌うことができ、最高の経験となりました。また、この大会ではほかの出場者との交流の時間も多くあり、さまざまな地域の出場者とコミュニケーションをとることができ、その中で多くの刺激を受けました。

コンクール当日、自分の演奏の前後にほかの出場者の演奏を聴くことができました。みんなレベルが高く、演奏を聴くことができてとてもよい経験となりました。自分が演奏を行う場面では、練習の成果を出し切り、今までで一番よい演奏ができたと思います。残念ながら本選には残れませんでした。この経験をもとにさらなるレベルアップを目指して尽力していきます。

ご指導いただいた先生方、また、お世話になった先生方、本当にありがとうございました。



第76回 瀧廉太郎記念 全日本高等学校声楽コンクール出場記念 2022. 10. 15



Ⅲ 令和4年度 徳島県学校音楽祭（器楽合奏の部）

徳島県学校合奏コンクール

- 1 日 時 令和4年7月28日（木）、29日（金）
- 2 会 場 あわぎんホール
- 3 審査員 四国大学名誉教授 石川 透
 瀬戸フィルハーモニー交響楽団トランペット奏者 仙波 克久
 徳島県邦楽協会会長 三木 千佳子
 鳴門教育大学准教授 山田 啓明
 徳島県立総合教育センター次長 横畠 亜希子（五十音順）

4 プログラム（29日）

学校	指揮者	演奏形態	曲 名	作曲者（編曲者）
徳島文理高等学校		合奏小編成	水辺の春 スコットランド・ザ・ ブレイブ	スコットラン ド民謡 金子健治
城西高等学校	森長 友希	金管バンド ・吹奏楽	北の鳥たち	広瀬 勇人
県立川島中高等学校	岸 直美	金管バンド ・吹奏楽	交響詩曲「西遊記」	福島弘和
城ノ内中等教育学校		合奏小編成	3つのヴァイオリンと 通奏低音のためのカノ ンとジグニ長調 愛の挨拶	J.パッヘルベル（編 曲堀越隆一） E.エルガー（編曲 G.S.オリーブ）
阿波高等学校	松浦 有沙	合奏小編成	セレナーデニ短調 op.36 より 第1楽章、第2楽章	J.ペリツァイ
名西高等学校	上原 慎太郎	合奏小編成	「ホルベルク組曲」より 第1曲：前奏曲 第2曲：サラバンド 第5曲：リゴードン	E.グリーグ
城東高等学校	井上 郁代	合奏大編成	幻想序曲「ロメオとジュ リエット」	P.チャイコフ スキー

一部制限はあるものの、2年ぶりに観客を入れての開催となった今回の音楽祭だが、7月に入ってコロナウィルス感染者数が爆発的に増加する中、主催者である徳島県音楽教育研究会、出場される各校の指導者や生徒のみなさん、また送り出すご家族の皆が不安を抱えながらのステージとなった。とりあえずは無事に終えられたことを喜ぶとともに、ご尽力された関係者の方々へ感謝と敬意を表したい。

久しぶりに高校生の演奏を聴いて、やや寂しく思ったのは表現の自発性やアンサンブルを楽しむ様子が、以前と比べて少なく感じられたことである。アンサンブルにおいて縦の線を合わせることを優先するあまり、音楽の流れや起伏そして個々の自発的表現が後回しになってしまうのは、つつい起こりがちなことだ。おそらくはコロナのために合奏の練習が制限されるだけでなく、以前には当たり前だった、生徒同士の付き合いや談笑といった時間も少なくなって、人間関係が希薄になったことも原因ではないかと個人的に推測している。アンサンブルで縦の線が揃うことは結果である。そのためにお互いのテンポ感やリズム感を揃えとともに、指揮者にたよるだけでなくパート内、パート間で聴き合い、アイコンタクトを取り合って、ずれそうになりながらも柔軟に修正しつつ音楽を進めて行く、いわばアクロバットの様な楽しみを、失敗を重ねつつも是非追求して欲しい。

中学校などと比べると高等学校のステージにおいては、小学生あるいは中学生時代から楽器を続けている者、あるいは高等学校に入学してから楽器を始めてまだ日が浅い者など、個人の技量、あるいは出場校ごとの技量に大きな差が生じてしまっている感は否めず、それが表彰結果に如実に出てしまっていることは、致し方ない。音楽的な表現や合奏における高度な喜びに達するには、まず楽器に習熟する必要がある、そのためには長期間のたゆまぬ練習が必要である。ただし何事も始めるのに遅すぎるということはないので、初心者の方にはこれからも精進を続けていただきたい。演奏の楽しみ、合奏の楽しみを一生の財産とし、我々仲間の輪に加わっていただきたい。それこそが我々音楽教育、音楽関係者の切なる願いである。

個々の学校の演奏を聴いての感想は以下のとおりである。

徳島文理高等学校

音量のバランスの取れた落ち着いた演奏。ただ、音程にやや難があったことやアンサンブルの縦の線を合わせることに終始してしまったのが惜しまれる。音楽の流れや起伏そのものをお互いに共有し、また練習の際に表現の様々な可能性を実験することを通して、より高度な楽しみを追求してほしい。

城西高等学校

小編成であるにもかかわらず、個々の楽器のソロなど、むしろその良さが生きた演奏であった。欲を言えば、いくつかのパートにはもう少し踏み込んだ表現が聞かれれば、より素晴らしい演奏になったかもしれない。とはいえ全体的に粒の揃った、ノリの良い音楽を楽しめた。

県立川島中高等学校

丁寧ではあるものの、やや受け身な表現だったのが気になった。技術に自信がない人もいるだろうが、音楽においてもスポーツと同じく「思い切り」が大切である。決して雑になってはならないが、

不安を乗り越えるチャレンジ精神の発揮が望まれる。

城ノ内中等教育学校

少人数で、少なからず初心者もいたと思われるが、出場を決意して本番のステージに立つため努力したことは、一人一人にとって良い経験となり、思い出となったと思う。弦楽器は音程を取ることが先ずはハードルだが、ICTを活用するなり練習方法を工夫してほしい。

阿波高等学校

一人一人に技術の差は見られるが、要所要所を引っ張ってくれる奏者がいてくれるおかげでお互いにカバーしあって、高校生らしい自発性のある演奏ができたことに好感が持てた。

名西高等学校

初心者にとっては技術的に決して簡単ではない、グリーグの曲に挑戦したことに敬意を表したい。このような曲を弾きこなせるようになるには、どんな練習をするべきか、またパートとパートの間にズレが生じがちなので、それを克服するための知恵を出し合ってほしい。

城東高等学校

難曲ではあるけれども、雰囲気をつめて迫力のある立派な演奏である。ただ導入部の木管楽器のアンサンブルにおいては指揮者に頼るだけでなく、お互い聴き合ってアインザッツとバランスに心を配ってほしかった。また弦楽器が弾ききれずに音量不足になる箇所もあるので、そこは改善が望まれる。



Ⅳ 令和4年度 徳島県学校音楽祭（合唱の部） ～第89回NHK全国学校音楽コンクール徳島県大会～

1 日 時 令和4年8月17日（水）
2 会 場 藍住町総合文化ホール
3 課 題 曲 「無音が聴こえる」
作詞：住野 よる 作曲：松本 望

4 審 査 員 徳島県立総合教育センター 指導主事 上原 祥子
徳島文理大学教授 河口 雅子
鳴門教育大学准教授 鉄口 真理子
声楽家 真鍋 美恵
愛媛県合唱連盟顧問 三好 幸夫（五十音順）

5 プログラム（自由曲）

学 校	自由曲 作詞・作曲	指揮者	伴奏者
徳島北高等学校	覚和歌子の詩による混声合唱曲集『等圧線』 より「F」 作詞：覚 和歌子 作曲：信長 貴富	榊 一二三	角 多恵子
城北高等学校	女性合唱とピアノのための『花に寄せて』 から「ばら・きく・なずなー母に捧ぐー」 作詞：星野 富弘 作曲：新実 徳英	藤川 卓司	廣橋 卓也
城東高等学校	女性合唱とピアノのための組曲 『桜の花びらのように』より「十月」 作詞：みなづき みのり 作曲：田中 達也	井上 郁代	浅井 久視子
徳島市立高等学校	夕暮ー女性合唱とピアノのためのー 作詞：谷川 俊太郎 作曲：土田 豊貴	梅本 敏行	美馬 かおり
名西高等学校	女性合唱とピアノのための 『たましいのスケジュール』から「空」 作詞：覚 和歌子 作曲：横山 潤子	新居 誠司	上原 慎太郎

今年度の高等学校の部、課題曲は《無音が聴こえる》(作詞：住野よる、作曲：松本望)でした。歌詞について、作詞された住野さんは次のように語っています。「僕は大きな音で発せられた声よりも、気遣いやためらいの気持ちから発せられなかった心の声の方が興味があるし、大事にしたいと思っています。自分の中には声になる前の心がたくさんあって、自分にしか聴こえていない無音がある。それを大事にしてほしいという思いをこめて、《無音が聴こえる》というタイトルにしました。(NコンHP、住野さん談)」

また、作曲された松本さんは、歌詞のイメージから「揺らいだ感じ」を得て曲をつくられたそうです。「声高に主張するというよりは、後ろの方から見守ってくるというような、こう優しい感じとか温かい感じを感じたんですけれども、(略)揺らいだ感じというか。具体的にいうと和音とかもいわゆる短調と長調をちょっとこう、行き来して揺らでおこうかなとか。テンポ感とかも、あの拍子とかも詩の言葉に寄せる、導かれたんですけれども。結局選んだ拍子、8分の6拍子、8分の9拍子っていうのはその拍子自体が3と2の融合で、流動性がすごいある。そういう、『揺らいでいるものもあっていいんだよ』っていうそういうメッセージとうまく合うように、意識的にそういう揺らいだものを使った曲にしました。(NコンHP 松本さん談)」

2022 年もコロナ禍が続き、思うように人と関わるできない日々が続いています。消毒、マスク、距離を取った練習等、困難な状況が未だに続いていたことと思います。このような日常の中で私たちの中に言葉にならない「心の声」が蓄積してきているのではないのでしょうか。そんな中で日々過ごす皆さんのかけがえのない一瞬一瞬で感じた喜びや悲しみや揺れる思い、言葉にならないような「心の声」が、当日の歌声に凝縮して表現されていたことと思います。そして、一人ひとりの声を通じて自分の思いを伝え、他者と心を通わせる喜びが伝わってきました。各校、皆さんの歌声はそれぞれに素晴らしく、魅力的なものでした。

コロナ禍の今だからこそ、より一層、合唱の力、音楽の力を実感する貴重なひと時となったのではないのでしょうか。以下、各校の演奏について、審査員の先生方の講評をまとめたものを記載します。

【城北高等学校】

柔らかく、素直で澄んだ歌声で、聴き手を温かい気持ちにさせてくれました。6名という少人数ながら、各パートがバランスよく響いていました。身体がどんどん成長するこの時期、身体づくりにも取り組むと、さらに低音、高音、息の使い方など、豊かな表現が期待できます。

(課題曲) 刻々と変化するこの曲の面白さを、一人ひとりが丁寧に表現していました。達成感や流れも感じられました。

(自由曲) 透明感のある歌声にぴったりの選曲でした。言葉を大切に歌われていることが、曲のもつフレーズ感とマッチして、深い表現につながっていると感じました。

【城東高等学校】

一人ひとりの身体を通して生きた音楽が流れていたように思います。透明感のあるのびやかな歌声で、女声合唱の包み込むような温かさが感じられました。フレーズの最後まで丁寧に表現され、言葉のもつニュアンスの表現方法も素晴らしかったです。

(課題曲) 一つひとつのフレーズを丁寧に表現することで、大きな曲想の表現につながっており、大変すばらしかったです。弱奏部分も音がよく響き、歌詞もよく聴こえてきました。最後の p 部分、どこまで身体の緊張感を保てるか意識し、さらなる表現の幅を広げてみてください。

(自由曲) とても伸びやかで美しいハーモニーでした。各パートが非常に充実しており、細部にわたって丁寧に表現されていました。曲全体が美しい流れの中で演奏され、すばらしい《十月》でした。一人ひとりが曲のイメージをもって表現しようとしているのが感じられました。

【徳島市立高等学校】

柔らかく広がりのある魅力的な歌声でした。全体的によくまとまり、両曲ともにアグレッシブで推進力のある音楽づくりで、聴き手を引き付ける素晴らしい演奏でした。パート内での響きを揃える意識をもつと3パートの動きが、より明瞭に伝わるようになることが期待されます。

（課題曲）曲想の変化がよく表現され、メリハリが感じられました。一つひとつのフレーズの終わりが丁寧でした。フレーズの始まりや言葉のニュアンス、響きに意識を向けるとより一層深い表現が期待できます。

（自由曲）充実したハーモニーで声が伸びやかに響いていました。言葉も明瞭で、この曲に寄せる皆さんの一人ひとりの思いが十分に伝わってきました。低音部の安定感、強弱の伝え方を工夫してより素敵な表現を目指していきましょう。

【名西高等学校】

各パート毎、全体の響きに統一感があり、日々の練習の成果が感じられました。両曲ともに曲の冒頭部分が素晴らしく、音楽へ一気に引きこまれました。

（課題曲）刻々と変化する曲想を丁寧に表現し、大きな広がりのある表現へとつなげていたことが素晴らしかったです。特に透明感のある歌声とハーモニーがマッチして、充実感のある合唱となっていました。

（自由曲）言葉が明瞭でまとまりのある透明感のある歌声にぴったりの選曲でした。全体の流れ、構成も素晴らしく、絶妙な間がさらに魅力的な表現をつくり出していたと感じられました。

【徳島北高等学校】

5名のハーモニーが柔らかく、繊細な歌声をつくりあげていました。一音一音丁寧に歌われているのを感じました。少人数ながら、フレーズの捉え方によってスケールの大きな表現となっていたと思います。

（課題曲）一人ひとりがパートの役割を意識して表現をつくっていたと思います。男声は息の深さや体幹を意識すると、より一層深い表現が期待できます。遠慮せずにいきましょう。

（自由曲）澄んだ声で一人ひとりが表現できていました。50小節目「エフの～」ソプラノがとてもよく響いて美しかったです。ピアノの音数の多い曲ですので、歌声とピアノ、全体のバランスに注意するとより良いと思います。



V 令和4年度 人権に関する児童生徒の作品

●作詞作曲部門 知事賞 徳島県立城東高等学校1年 濱西 葵 『君にしかないもの』

【作詞・作曲に際して】

自分と他人を比べて悩んでる人に向けて、元気づけるような曲を書きました。

私は他人と比較してもいいことなんてないと思っています。自己肯定感が下がるだけで、それぞれの個性があってこそ面白みが感じられることの方が多いと思います。思ったことを素直に書いた詩なので、そのまま伝わってくれれば嬉しいです。

君にしかないもの

君にしかないもの

作詩・作曲 濱西 葵(城東高校1年)

1. どうしてこんなに人は 他人ばかりと比べて
勝手に一人落ち込んでのさ 馬鹿ね
髪型、服装も 一人一人違って当たり前じゃない
それなのに 君はまた思い煩っている
君は他の誰にもないもの持ってるんだ
だからさ 君として強く生きてやれ
たとえ君を否定する者が現れても
君らしく“今”をいきてゆけ
2. どうして僕はいつも 他人の目ばかり気にして
変に格好つけてるんだろう 馬鹿だ
それじゃ本当の自分見失ってるばかりで
「何のために生きているんだ？」
ダサくてもいいよ 自分らしく
僕は他の誰にもないもの持ってるんだ
だからさ 僕として強く生きてやる
たとえ僕を笑う者がいたとしても
僕らしく“今”を生きてゆく

♩=64 (♩=♩)

どうしてこんなに人は 他人ばかりと比べて
勝手に一人落ち込んでのさ 馬鹿ね
髪型、服装も 一人一人違って当たり前じゃない
それなのに 君はまた思い煩っている
君は他の誰にもないもの持ってるんだ
だからさ 君として強く生きてやれ
たとえ君を否定する者が現れても
君らしく“今”をいきてゆけ

どうして僕はいつも 他人の目ばかり気にして
変に格好つけてるんだろう 馬鹿だ
それじゃ本当の自分見失ってるばかりで
「何のために生きているんだ？」
ダサくてもいいよ 自分らしく
僕は他の誰にもないもの持ってるんだ
だからさ 僕として強く生きてやる
たとえ僕を笑う者がいたとしても
僕らしく“今”を生きてゆく



Ⅵ 実践報告

1 フレッシュ研修Ⅰを終えて

城西高等学校 森長 友希

フレッシュ研修Ⅰでの研修を終え、振り返るとあっという間の一年間でした。研修にあたり、ご指導くださった先生方ありがとうございました。

10月に行った研究授業では、イタリア歌曲「Caro mio ben」の歌唱表現を行いました。特に、指導案の作成には時間がかかりました。教材研究や授業の進め方、評価方法について考える他、どのようにしてICTを活用した授業ができるのか、歌唱の際に歌えないクラスでどうすればイタリア歌曲に興味を持ってもらえるかなど、悩みは尽きませんでした。しかし教科指導の先生がいつもの確に助言してくださり、いろいろと相談にのってくださったおかげで、無事に研究授業を終えることができました。また、研究協議においては板書の使い方や発声するためのポイントなどいろいろな観点からご指導いただきました。研究授業をするにあたり、今後の授業でも活用できる教材が出来たことは、自分自身にとって大きな成果となりました。そして、授業の進め方、生徒との向き合い方を改めて見直すことが出来ました。

高校教員として担任や教科指導をしていく中で、身近に生徒の成長を感じられたことに感謝しています。この一年間の経験の中で、仕事の責任感、使命感など様々なことを学びました。教員としてまだまだ未熟な部分が多いですが、2年目の教員生活に目標をもって取り組みたいです。

音楽科学習指導案

令和4年10月27日（木）第3校時

13・14HR音楽Ⅰ選択者（17名）

指導者 森長 友希

1 題材名 諸外国の歌曲に親しもう

2 題材の目標

- (1) 「Caro mio ben」の曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音の技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 旋律・速度を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) イタリア歌曲の歌い方や発音に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 教材 「Caro mio ben」 ジュゼッペ・ジョルダニ作曲

4 題材設定の理由

13HRは農業科の食品科学科，14HRは農業科のアグリビジネス科である。本校13・14HRの音楽選択者は，比較的物静かで真面目な生徒が多い。生徒の様子を振り返ると，音楽には興味や関心があるが，歌唱に対する自己表現が苦手であると感じる。中学校では，コロナ禍で歌唱による表現活動が思う存分にできなかったため，自信がないようである。1学期の授業の振り返りアンケートでは，「1学期は恥ずかしくて大きな声で歌えなかったもので，2学期からはしっかり声を出して歌いたい。」と書いた生徒が多数いたことから，歌う意欲はあると感じている。

この楽曲は，イタリア歌曲の入門曲であり，イタリア語の歌い方や発音を理解しつつ，イタリア歌曲の表現方法について考えさせたい。曲想と歌詞が表す心情を結び付け，自分自身がイメージし，工夫しながら歌唱表現させたいので，本題材を設定した。

原語によるイタリア歌曲の歌唱においては，生徒の興味・関心を深めることが重要であると考え。そのため，タブレットを活用し，具体的な歌唱方法をイメージしやすいよう指導を行う。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の（ア）から（ウ）までについて理解すること。

（ア）曲想と音楽の構造や歌詞，文化的・歴史的背景との関わり

ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な，次の（ア）から（ウ）までの技を身に付けること。

（ア）曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能

〔共通事項〕（1）

（本題材の学習において，生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」，「速度」）

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知「Caro mio ben」の曲想と音楽の構造や歌詞，文化的・歴史的背景との関わりを理解している。 技創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声，言葉の発音の技能を身に付けている。	思旋律・速度を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，自己のイメージをもって歌唱表現を工夫している。	態イタリア歌曲の歌い方や発音に関心をもち，主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画（本時3／4時間）

時	教材	◎ねらい ●学習内容	評価（◆評価方法）
---	----	------------	-----------

		・学習活動	知	・	技	思	態
1		◎国の特徴や発音を理解し、イタリア歌曲の歌唱に関心をもつ。					
		●イタリア語の特徴を理解し、発音する。 ・タブレットを用いて、イタリアへの理解を深める。 ・イタリア語の発音を知り、正しく発音する。 ・CDを聴いて、イタリア歌曲の音楽表現の豊かさを味わって鑑賞し、曲想やイメージを想像する。					
2		◎イタリア歌曲の特徴を生かした歌唱表現をする。					
		●歌詞を朗読し、楽曲の音取りをする。 ・なめらかに発音できるように、原語歌詞の朗読の練習をする。 ・リズムや発音に気をつけて、歌唱をする。	◆ 観察 知				
3 本時		◎旋律や速度を意識した歌唱表現をする。					
		●曲想と歌詞が表す心情に関心をもって歌う。 ・歌唱動画を見て、楽曲に出てくる記号や楽語について理解し、ワークシートにまとめる。 ・速度記号のある旋律の歌い方をイメージする。 ・旋律や速度を意識して、歌唱する。				◆ ワークシート・観察 思	
4		◎歌詞が表す情景や心情を生かして、表現を工夫する。					
		●今までの学習をふまえ、自分なりの表現方法を見つける。 ・イタリア歌曲の美しい歌い方を思い出しながら、工夫して歌う練習をする。 ・自分なりに工夫して表現できた点を、ワークシートにまとめる。			◆ 聴取・観察 技		◆ 観察 ◆ ワークシート 態

8 本時の学習

(1) 目標 旋律や速度を意識した歌唱表現をする。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要素
1 発声	○「Caro mio ben」の中に出てくる跳躍や装飾音に着目し、発声をする。		旋律 速度
2 これまでの学習を振り返り、本時の目標を確認する。	○これまでの学習を振り返り、1曲通しで歌わせる。		
3 歌唱動画を見る。	○タブレットを用いて、歌唱動画からイタリア歌曲の歌唱表現を確認する。	◆観察・ワークシート【思】	
4 ワークシートを記入し、発表する。	○自分の言葉で書くように促す。		
5 旋律や速度を意識して、歌唱する。	○テンポの動きを感じとらせる。 ○曲想と歌詞が表す心情を考えるよう促す。	◇旋律・速度を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を工夫している。 ◆観察・ワークシート	
6 本時のまとめを振り返り、次時の活動を確認する。			

(3) 評価及び指導

「十分満足できる」と判断される状況	・楽曲に出てくる記号や楽語について自分なりに解釈し、旋律や速度を工夫しながら歌唱している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手だて）	・他者の意見を踏まえながら自分なりの価値を見出せるように、自分の音楽の解釈に近い他者の意見をワークシートに記述させる。 ・旋律や速度の手本を示し、歌唱できるようにする。

2 フレッシュ研修Ⅱを終えて

池田支援学校 小谷 直也

初任2年目は、前年度と同じ高等部3年生を担当することになった。1年後には社会人となる生徒達を指導する責任を感じながら、卒業後にどのような姿でいてほしいか想像しながら、学級運営や授業計画に携わろうと努めた。前年度の生徒達とは個々の実態も全くことなり、日々生徒と向き合いながら指導の仕方を試行錯誤することになった。そのなかで、例えば言葉がけひとつでも生徒のモチベーションが変わってしまうことがあり、改めて、教員として生徒との関わり方においても多くの配慮が必要だと感じた。

フレッシュ研修Ⅱでは教員としての心構えから学級運営の具体的方策、企業等研修を通した学びなど、1年目以上に自分の教員としてのあり方を考えることができた。

第2回目の研究授業では、一人一人が短い旋律を創作しながら、協力して作詞作曲をし、「3年生を送る会」で発表する取り組みを実践した。本題材では、生徒全員が自分なりのイメージを持って工夫しながら作詞と作曲を行う「主体性」、友だちと作品に込められた思いやイメージを共有しながら練習を重ね、力を合わせて発表する「協調性」を育むことを目的にして授業計画を行った。特に、自分達で作った歌を「3年生を送る会」で発表することが、少しでも音楽に関する印象的な経験として生徒達の心にのこり、卒業後も音楽を愛好する心情を育てることにつながるよう心がけた。

今年度から卒業式でも校歌や卒業の歌を生徒達が歌うことができた。授業でも真剣に合唱の練習をしている姿を見て関心するとともに、何より生徒達の元気な歌声を聞くことができたことがとてもうれしかった。

今年度も、振り返るとあっという間に過ぎた1年間であった。そのなかで学級担任としても、授業者としても、いかに生徒の実態把握をしながら主体性を引き出し、ポジティブな行動支援ができるかということが課題となった。PBSや応用行動分析など、初任として支援学校に勤務してから初めて勉強したこともたくさんあった。今勉強させて頂いていることは必ず次の勤務校でも役に立つと考える。来年度も初心を忘れずに、日々教員としての資質を高めるための努力を続けたいと思う。

音楽科 学習指導案

授業日時：令和4年12月20日（火）6校時

対 象：高等部音楽Bグループ19名

場 所：プレイルーム

授 業 者：T1，T2、T3，T4

1 題材名「3年生を送る会のために歌を作り、発表しよう」

2 生徒の実態

高等部の音楽科では、生徒の障がいの実態や特性に応じて、2つのグループに分かれて授業を行っている。本グループは、男子15名、女子4名の計19名で構成されている。音楽に対して興味・関心を持っている生徒が多く、授業の活動にも意欲的に取り組むことができている。

本題材に関する生徒の実態は次の通りである。

生徒名	実態
A	1年生男子 知的障がい 【アセスメント】WISC-IV (H30.1月実施) 全検査 IQ62 言語理解 74 知覚推理 78 ワーキングメモリー 52 処理速度 64 【本題材に関する実態】 ・いくつかの音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、正しい歌詞と音程で簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜を頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
B	1年生男子 知的障がい、自閉スペクトラム症 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R4.3月実施) 社会生活年齢 5歳0ヵ月 身辺自立 6-2 移動 4-5 作業 5-2 意思交換 5-5 集団参加 3-9 自己統制 4-5 【本題材に関する実態】 ・いくつかの音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜と教員の指さしを頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
C	1年生男子 知的障がい、自閉症 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R4.3月実施) 社会生活年齢 7歳11ヵ月 身辺自立 9-7 移動 8-1 作業 9-2 意思交換 7-5 集団参加 6-6 自己統制 7-9 【本題材に関する実態】 ・いくつかの音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜と教員の指さしを頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
D	1年生女子 知的障がい、自閉症 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R4.3月実施) 社会生活年齢 11歳7ヵ月 身辺自立 13-0 移動 9-11 作業 13-0 意思交換 12-0 集団参加 9-9 自己統制 12-3 【本題材に関する実態】 ・音階を用いて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、正しい歌詞と音程で簡単な歌を歌うことができる ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜を頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
E	1年生男子 多動症状を伴う自閉症スペクトラム障がい、精神発達遅滞、知的障がい 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R4.3月実施) 社会生活年齢 8歳11ヵ月 身辺自立 9-7 移動 8-1 作業 9-11 意思交換 8-9 集団参加 9-9 自己統制 7-9 【本題材に関する実態】 ・音階を用いて、旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、簡単な歌を歌うことができる。

	・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて拍手することができる。 ・楽譜を頼りに、ICT 機器を用いて旋律を演奏することができる。
F	1 年生男子 広汎性発達障がい、多動性障がい、知的障がい 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R4.3 月実施) 社会生活年齢 13 歳 0 ヶ月 身辺自立 9-7 移動 9-11 作業 11-4 意思交換 12-0 集団参加 7-9 自己統制 9-3 【本題材に関する実態】 ・いくつかの音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜と教員の指さしを頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
G	1 年生男子 知的障がい 【アセスメント】WISC-IV (R 2.7 月実施) 全検査 I Q 49 言語理解 51 知覚推理 58 ワーキングメモリー 60 処理速度 67 【本題材に関する実態】 ・いくつかの音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜と教員の指さしを頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
H	1 年生男子 知的障がい 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R4.5 月実施) 社会生活年齢 9 歳 7 ヶ月 身辺自立 13-0 移動 10-3 作業 13-0 意思交換 8-1 集団参加 9-9 自己統制 10-0 【本題材に関する実態】 ・いくつかの音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて拍手することができる。 ・楽譜と教員の指さしを頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
I	1 年生女子 知的障がい 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R4.3 月実施) 社会生活年齢 13 歳 0 ヶ月 身辺自立 8-9 移動 6-0 作業 8-7 意思交換 6-7 集団参加 6-6 自己統制 7-9 【本題材に関する実態】 ・音階を用いて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、正しい歌詞と音程で簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜を頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
J	2 年生男子 知的障がい 【アセスメント】WISC-IV (H30.10 月実施) 全検査 I Q 49 言語理解 55 知覚推理 60 ワーキングメモリー 63 処理速度 55 【本題材に関する実態】 ・いくつかの音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜と教員の指さしを頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
K	2 年生女子 知的障がい

	【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R3.3 月実施) 社会生活年齢 9 歳 4 ヶ月 身辺自立 8-9 移動 9-11 作業 10-9 意思交換 8-1 集団参加 8-8 自己統制 10-3 【本題材に関する実態】 ・いくつかの音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、正しい歌詞と音程で簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて拍手することができる。 ・楽譜を頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
L	2 年生女子 知的障がい、自閉症、注意欠陥多動性障がい 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R3.3 月実施) 社会生活年齢 5 歳 11 ヶ月 身辺自立 5-5 移動 4-5 作業 7-5 意思交換 4-11 集団参加 6-6 自己統制 6-2 【本題材に関する実態】 ・音階を用いて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、正しい歌詞と音程で簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜と教員の指さしを頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
M	2 年生男子 知的障がい 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R3.3 月実施) 社会生活年齢 6 歳 9 ヶ月 身辺自立 8-9 移動 6-0 作業 11-4 意思交換 4-11 集団参加 6-0 自己統制 5-0 【本題材に関する実態】 ・いくつかの音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜と教員の指さしを頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
N	3 年生男子 知的障がい 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R3.12 月実施) 社会生活年齢 13 歳 0 ヶ月 身辺自立 13-0 移動 12-9 作業 13-0 意思交換 13-0 集団参加 11-5 自己統制 12-3 【本題材に関する実態】 ・音階を用いて、旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、正しい歌詞と音程で歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜を頼りに、ICT 機器を用いて旋律を演奏することができる。
O	3 年生女子 知的障がい 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R2.3 月実施) 社会生活年齢 11 歳 4 ヶ月 身辺自立 13-0 移動 8-1 作業 11-1 意思交換 13-0 集団参加 11-5 自己統制 13-0 【本題材に関する実態】 ・音階から音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、正しい歌詞と音程で簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜を頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
P	3 年生男子 知的障がい、自閉症、反抗挑戦性障がい 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R2.3 月実施) 社会生活年齢 10 歳 3 ヶ月 身辺自立 6-10 移動 9-11 作業 12-4 意思交換 10-8 集団参加 8-9 自己統制 12-3 【本題材に関する実態】 ・音階から音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、曲のリズムを正しく取ることができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて拍手することができる。

	・楽譜を頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
Q	3 年生男子 知的障がい、てんかん 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R2.3 月実施) 社会生活年齢 8 歳 6 ヶ月 身辺自立 6-10 移動 8-1 作業 9-2 意思交換 7-0 集団参加 7-9 自己統制 5-7 【本題材に関する実態】 ・音階を用いて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜を頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
R	3 年生男子 知的障がい 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R3.12 月実施) 社会生活年齢 13 歳 0 ヶ月 身辺自立 13-0 移動 13-0 作業 12-4 意思交換 13-0 集団参加 13-0 自己統制 12-3 【本題材に関する実態】 ・いくつかの音を選んで並べて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、正しい歌詞と音程で歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜と教員の指さしを頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。
S	3 年生男子 不注意・多動性を伴う自閉症スペクトラム障がい (高機能) 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査 (R2.3 月実施) 社会生活年齢 10 歳 3 ヶ月 身辺自立 8-9 移動 9-11 作業 11-4 意思交換 9-4 集団参加 9-9 自己統制 12-3 【本題材に関する実態】 ・音階を用いて、短い旋律を作ることができる。 ・ピアノ伴奏に合わせて、正しい歌詞で簡単な歌を歌うことができる。 ・友だちの演奏を聴いて、良いところに気付いて自ら拍手することができる。 ・楽譜を頼りに、ICT 機器を用いて短い旋律を演奏することができる。

3 題材設定の理由

本グループは、前期から 10 月にかけての音楽の授業で、主に表現会の楽器合奏の練習を行ってきた。授業では生徒一人ひとりが担当する楽器を自分で選択し、全員が責任を持って練習を重ね、協力して表現会本番の楽器合奏に臨むことができた。その一方で、昨年度からの本グループの音楽の授業を振り返って、主に 3 つの改善すべき点が見つかった。一つ目は「器楽」と「鑑賞」以外の音楽の活動の幅を広げること、二つ目は ICT を活用し、卒業後も音楽を一つの趣味や余暇活動の一つとして愛好する心情を育てること、三つ目は自分で表現の仕方を工夫したり、友だちの発表を聞いて良いところを認めたりする活動を取り入れることである。これを踏まえて前回の研究授業では、iPad を用いながら 8 小節の簡単なメロディーを創作し、グループ内で発表する活動を行った。授業の中では、自分なりにイメージを持って曲を作り発表し、友だちから評価されることで、音楽による自己表現に喜びを感じている様子の生徒が見られた。しかし、鍵盤の操作や音名の理解などに生徒の実態差があり、自分の思いや意図を持って創作に取り組むことが難しかった生徒も見られた。さらに研究授業後も iPad を用いた創作を数回行ったが、周囲の友だちと話し合いながら主体的に工夫して創作を行う生徒と、自分で音を選んだり考えたりすることが難しい生徒との間で実態差がでてきている様子が窺えた。また、発表後のワークシートを活用した自己評価、他者評価についてはほとんどの生徒が積極的に書くことができているが、友だちの作品の良さや個性を認めたり共有したりしようとする意識はまだ十分持つに至っていないと感じられた。本研究授業では、以上第 1 回の授業での課題点を改善す

ることに加え、生徒一人ひとりが音楽の良さを体感し、今以上に音楽を愛好する心情を育むきっかけとなることを重視したいと考える。そのためにも、生徒がそれぞれの創作の課題に取り組み発表するだけでなく、自分達が表現したいイメージを膨らませて創作し、友だちと意思を共有して練習を重ねた後、大勢の友だちや教員の前で発表し、自分達の創作表現を認めてもらう経験を持たせることが必要だと感じた。そこで本題材では「3年生を送る会」を作品の演奏発表の場として設定した。発表までの創作、練習の過程を通して、自分の思いを表現する楽しさだけでなく、他者の気持ちや作品に込めた思いを感じ取り共有しようとする姿勢を育みたい。その経験が、日々の生活を明るく過ごしていく意欲や自己肯定感を高めることに音楽を役立てようとする意欲につながるように指導したい。

「特別支援学校高等部学習指導要領」（平成31年告示）第2章各教科第2節知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の「音楽」の目標に「（2）音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする」、 「（3）音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を養う」と記されている。さらに各段階の目標及び内容の第1段階には、「主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、（中略）生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う」と記されている。

以上を踏まえて本題材名は、「3年生を送る会で歌う歌をつくろう」とした。さらに本題材を実施する上で次の3つのことを重視する。一つ目は、生徒が創作に興味・関心を持ちながら主体的に活動に取り組むことができるための教材の工夫である。曲作りのためのワークシートでは、5つの音を平仮名と音符で示し、この中から選択して旋律をつくるよう提示することで、生徒の創意工夫を引き出しながら分かりやすく創作できるよう工夫する。より発展的な内容を求める生徒には、音の選択肢を増やしたワークシートを用意し、自分のイメージをさらに膨らませて創作するように助言する。創作が思うように進んでいない様子の生徒には教員が旋律の作り方について例示し、生徒が分かりやすく創作に取り組めるようにする。たとえ生徒自身が思うように創作することができないといったことや自信がないということであっても、よい点を見付けたり工夫したらよい点などを相談したりすることで創作への意欲を持続させるように心がける。二つ目は協働的に創作や表現活動に取り組む機会の設定である。本題材の第1時～第4時の活動では「1年間の思い出を歌にしよう」という目標を設定し、音楽Bグループの生徒全員で歌詞とメロディーを出し合い、一つの曲を作詞・作曲する。歌詞を読みながら友だちの思いを知ったり、その歌詞にメロディーをつけて一緒に歌うことで、他者の思いを感じながら一体感のある歌唱表現を目指す経験をさせたい。このような経験の積み重ねが、他者との協調を意識し望ましい人間関係を築くための感性を育てることにつながるように指導したい。さらに、教員からの言葉かけや称賛によるフィードバック、発表を聴き合った際の友だちの評価を通して、自ら主体的に自身の創作作品を発表する力、互いの思いを分かろうとし認め合う集団作りの力を育みながら自尊感情を高めることを目指したい。三つ目は、音楽の表現活動に親しみをもち、生涯愛好するための技能や意欲を身に付けるための教材や指導の工夫である。本題材では、前回の研究授業に引き続き「バーチャルピアノ」というiPadのブラウザ上の音楽ツールを教材に使用し、楽器がなくてもICT機器を使って音楽表現ができる手段を知り音楽に親しむ経験の幅を広げることを目指す。また、「3年生を送る会」での発表が少しでも音楽に関わる印象的な体験として生徒一人ひとりの心に残り、卒業後も音楽を楽しむ意欲を育てることにつながるようにしたい。

本時では、ワークシートを用いて歌詞のサビパートに旋律を作成し、4つのグループに分かれて一人ずつ自分の作った曲の演奏を発表する。曲作りを行う際には、五音音階と呼ばれる音階のなかから

自分のイメージに合わせて音を選択し、旋律の空欄部分を埋めるというかたちで曲を完成させることで、創作に慣れていない生徒でも分かりやすく活動を行えるように配慮した。より発展的な創作活動を求める生徒には、音の選択肢を増やしたワークシートを用意し、自分のイメージをさらに膨らませて創作するように助言する。また、授業のはじめには前時までの授業で創作した歌パートを全員で歌唱する。教員が歌唱指導を行う際は、特に生徒たちが上手に歌えていた点について、具体的なイメージを持てるような言葉を用いて称賛する。自分達で創作した歌の雰囲気を楽しみながら、本時での創作に対するイメージや意欲を高めることで、生徒達が自分なりの感性を働かせながら主体的に音楽に関わろうとする力を育てたい。

発表の場面では、生徒が自分で作った曲を自分で演奏することで創作の活動に主体的に取り組めるようにし、良かった点を教員が即時に解説付きのフィードバックをすることで、生徒一人一人が自信を持って活動に参加できるようにする。また、友だち同士で評価をする場面では、友だちの演奏で良かったと思う点にシールを貼ることで目に見える形で分かりやすくフィードバックできるようにする。生徒が友だちの演奏のどんなところが良かったのか具体的に考えられるよう、教員の言葉がけやチェックリストの項目を工夫する。

振り返りの場面では、友だちからの評価シールを見ながら自己評価を行うことで、客観的に良いところを見つけたり、友だち同士で頑張ったところを認め合えたりできるようにして、自己肯定感を育みたい。教員は生徒の創作や演奏、発表態度で良かったところをすかさず具体的に称賛することで、生徒たちにお互いの良さを認識し認め合うことへの気付きを促す。

本題材を通して、生徒が自分達のイメージを膨らませて創作し、協力して一つの歌を完成させて発表することで、一人一人が音楽に主体的に関わると同時に、みんなで思いを分かち合い表現する楽しさを実感することを目指す。音楽の授業を通して、学校生活や卒業後の生活を豊かで楽しいものになろうとする心情を養いたい。

4 題材の目標

○声を重ねたときの響き、旋律などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、声を合わせて歌ったり条件に沿った音を選択したりする技能を身に付け、歌唱や創作で表す。(知識・技能)

○声の音色や旋律の組み合わせなど、歌唱表現や創作表現についての知識や技能を得たりしながら、歌唱表現や創作表現を創意工夫する。(思考・判断・表現)

○歌詞と旋律の関わりや音楽が生み出す雰囲気に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の活動に取り組むとともに生涯音楽に親しんでいく意欲や態度を持つ。(主体的に学習に取り組む態度)

5 本題材の指導計画(全9時間)

- ・歌詞をつくろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- ・歌詞に旋律をつけよう・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 時間 (本時 3 / 3)
- ・自分たちでつくった歌を練習しよう・・・・・・・・ 5 時間

6 本時の個別目標

生徒	目標
A, C, D, I, K,	題材の目標と対応

L, M, N, O, P, R, S	・ 5 音音階から音を選択して、短い旋律をつくることができる。 ・ iPad を用いて、自分でつくった曲を演奏することができる。 ・ 友だちの発表を聴いて、評価シートにシールを貼ることができる。
B, E, F, G, H, J, Q	題材の目標と対応 ・ 5 音音階から音を選択して、短い旋律をつくることができる。 ・ iPad を用いて、自分でつくった曲を教員の声かけや指さしを受けながら演奏することができる。 ・ 友だちの発表を聴いて、評価シートにシールを貼ることができる。

7 本時の展開

時間	学習活動	支援上・指導上の手立て		学習活動における 具体的評価規準
		T 1	T 2・3・4	
1 分	1 始まりの挨拶をする。	・ 授業の開始を伝え、号令をかける生徒を呼名し、挨拶を促す。	・ 始まりの姿勢ができていない生徒には、姿勢や注目を促す。	・ 始まりの挨拶をすることができる。（技能的側面）【全員】 ・ T1 に視線を向け、説明を聞くことができる。（価値的・態度的側面）【全員】
4 分	2 本時の内容の確認をする。	・ ホワイトボードに本時のスケジュール表を掲示し、説明をする。	・ 注目できていない生徒には、注目を促す。	・ T1 に視線を向け、説明を聞くことができる。（価値的・態度的側面）【全員】
23 分	3 歌の創作をする。			
7 分	①創作した歌（完成したところまで）を歌う。	・ 前後左右の生徒と最低 1 m 以上間隔を空けるように促す。 ・ ピアノの伴奏に合わせて歌うよう促す。歌詞を間違えたり音程が分からない様子の際は、言葉かけをしたりピアノで音程を示したりする。	・ 前後左右の生徒と十分に間隔を空けられていない生徒には、声かけや指さしで移動を促す。 ・ 全体の様子を見ながら、正しい姿勢で歌えていなかったり、声が出せていない生徒には、言葉かけや指さしで促す。	・ T1 に視線を向け、説明を聞くことができる。（価値的・態度的側面）【全員】 ・ 友だちと声を合わせて歌おうとすることができる。（価値的・態度的側面）【全員】
8 分	②ワークシートを使って、歌の旋律作りをする。	・ ワークシートを配布し、空欄に音を当てはめる。	・ ワークシートを使って旋律を作ることができる。	・ 音階を使って、自分のイメージに合わせた旋律

		て旋律を作るよう指示する。iPad でピアノの音を指さしや言葉がけで確認しながら作っても良いことを説明する。 ・各生徒を順番に見て回る。	きていない生徒には、指さしや言葉がけで促す。	を作ることができる。(技能的側面)【全員】
8 分	③グループに分かれて、作った旋律を発表する。	・前時に決めたグループ、順番で発表することを説明する。 ・友だちの発表が終わったら、評価シートにシールを貼って友だちの良かったところを伝えるよう説明する。 ・友だちの発表が終わったら、拍手をするよう促す。 ・全員の前で発表をして、良いといった生徒の作品を、1～2 曲紹介する。	・一人で楽譜を見ながら演奏するのが難しい生徒には、楽譜や iPad 上の鍵盤を指さしながら弾く音を示す。 ・発表が上手くできていた時は、言葉やサインで称賛する。 ・発表する生徒に注目できていない生徒がいたら、注目するよう促す。	・楽譜を見ながら、自分で作った曲を演奏することができる。(技能的側面)【全員】 ・発表するグループに注目することができる。(価値的・態度的側面)【全員】 ・友だちの発表を聴いて、拍手をすることができる。【全員】
8 分	4 振り返りをする。	・「振り返りシート」に自分の発表の振り返りを記入することができていない生徒がいたら、記入するよう促す。	・拍手ができていない生徒がいたら、拍手をするよう促す。 ・曲に注目して聴けていない生徒がいたら、聴くように促す。	
3 分	5 まとめ話を聞く。	・本時の活動を振り返る。	・「振り返りシート」に振り返りを記入することができていない生徒がいたら、記入するよう促す。 ・T1 に注目できていない生徒がいたら、注目するよう促す。	・「振り返りシート」に振り返りを記入することができる。(価値的・態度的側面)【全員】 ・T1 に視線を向け、説明を聞くことができる。(価値的・態度的側面)【全員】

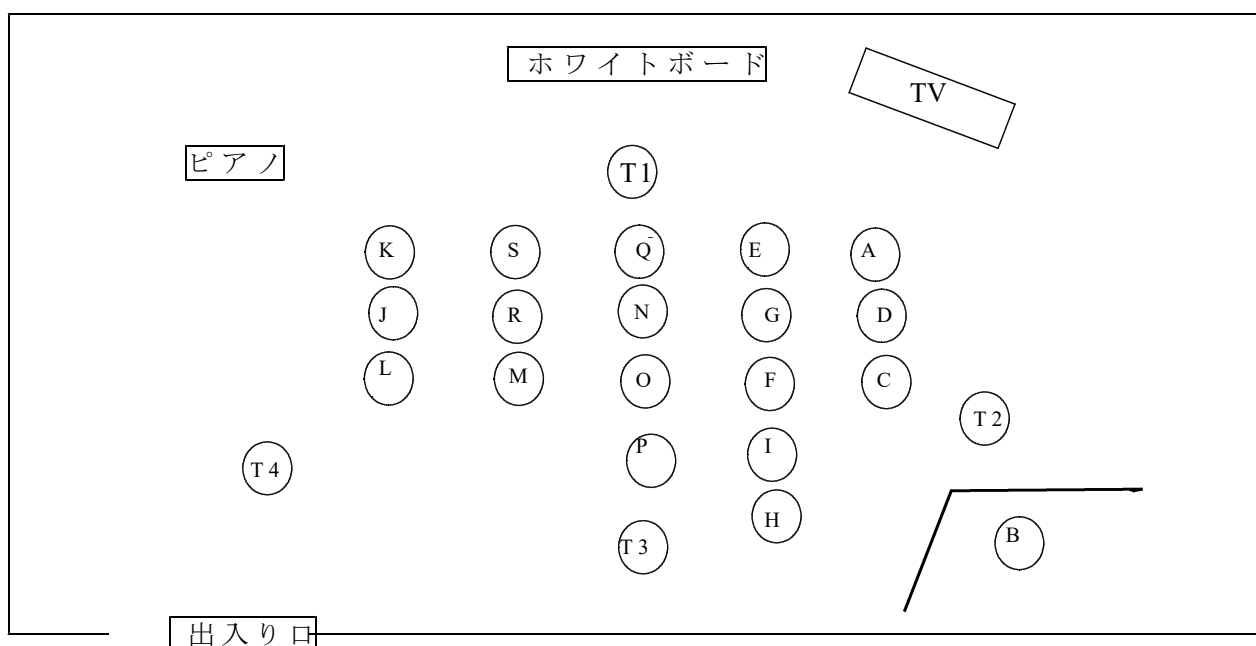
1分	6 終わりの挨拶をする。	・授業の終了を伝え、号令をかける生徒を呼名し、挨拶を促す。	・終わりの姿勢ができていない生徒には、姿勢や注目を促す。	・終わりの挨拶をすることができる。(技能的側面)【全員】
----	--------------	-------------------------------	------------------------------	------------------------------

8. 準備物

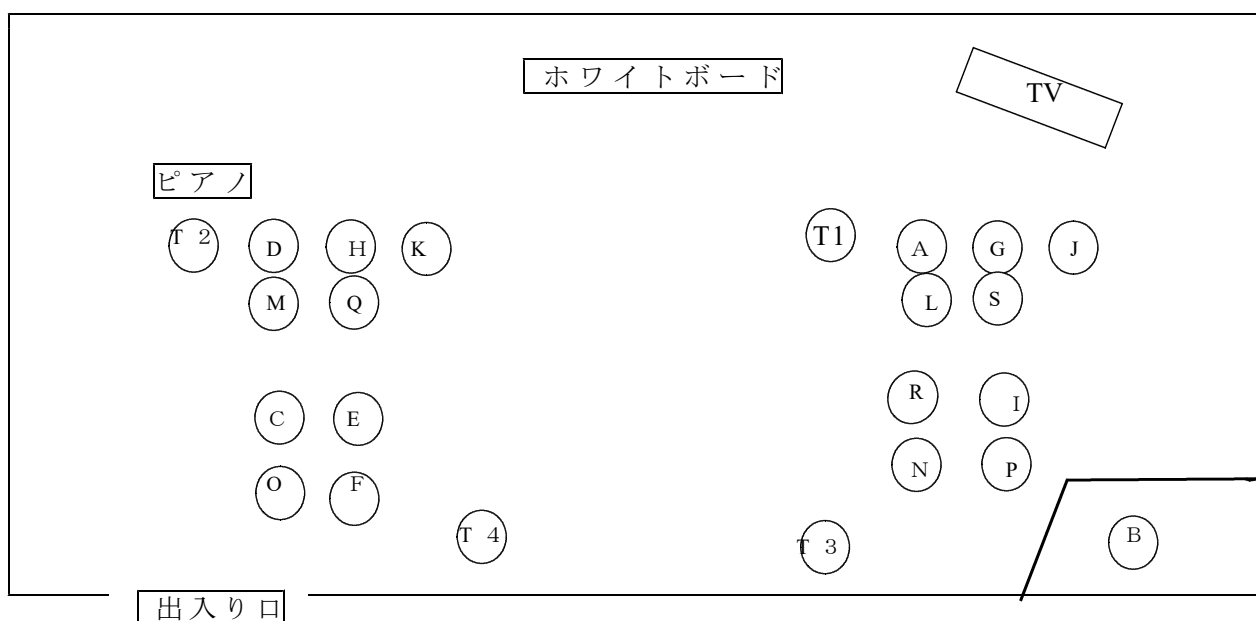
TV, iPad, HDMI ケーブル, 延長コード, 本時スケジュール, ワークシート, 評価シート, 振り返りシート, 丸シール

9. 教室配置

【始まりの挨拶, 曲づくり, 振り返り, 終わりの挨拶時】



【発表時】



発表 ひょうかシート

よかったところを聞いて、友だちにシールをはってもらおう！

よかったところ	↓シールをはる
きよく 曲 がきれいにつくれていた。	
えんそう 演 奏 がじょうずだった。	
お つ はつびよう 落ち着いて発 表 できていた。	

ふりかえりチェックシート

なまえ ()

自分のよかったところ	がんばり度
① 音階をつかって、曲をつくることができた。	◎ ○ △
② 落ち着いて、演奏することができた。	◎ ○ △
③ 友だちの演奏をよく聴いて、評価や拍手をすることができた。 (今日のかんそう)	◎ ○ △

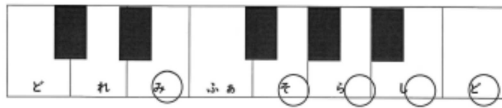
3年生を送る会のうたをつくろう②

なまえ ()

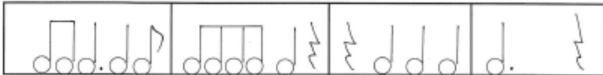
① ○のなかに「み、そ、ら、し、ど」から好きな音をいれてみよう



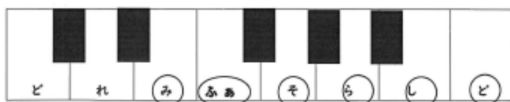
いっしょにいてくれてありがとう はげまし てくれてありがとう これ



② ○のなかに「み、ふあ、そ、ら、し、ど」から好きな音をいれてみよう



からも ずっと ともだち で い よ う ね



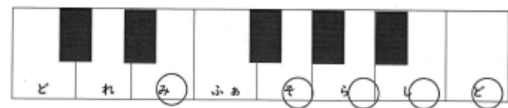
3年生を送る会のうたをつくろう③

なまえ ()

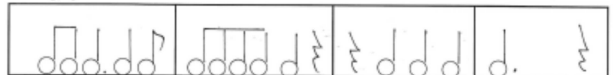
① ○のなかに「み、そ、ら、し、ど」から好きな音をいれてみよう



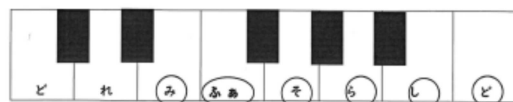
いっしょにいてくれてありがとう はげまし てくれてありがとう これ



② ○のなかに「み、ふあ、そ、ら、し、ど」から好きな音をいれてみよう



からも ずっと ともだち で い よ う ね



Ⅶ 会員寄稿

振り返れば38年 ～全ての出会いに感謝～

城北高等学校 荒木結香

1. 聾学校幼稚部でミュージカルに出会う

徳島商業、富岡東高校で非常勤講師を経験し、新採で聾学校幼稚部へ。支援学校の経験もなく、不安でいっぱいでしたが、子どもたちの笑顔に助けられ、聴覚口話＋キューサイン＋指文字＋身振り（手話）＋筆談でコミュニケーションを取りながら、季節の行事を8年間繰り返しました。

お花見、こいのぼり、七夕、キャンプ、落ち葉拾い、クリスマス会、餅つき、文化祭、ひなまつり。毎月行われる誕生会と城山登り。次から次に行事があり、月ごとに教室やプレイルームの壁面製作、朝の体操に週替わりの季節の歌…人生の中でこんなに季節を感じながら過ごしたことはありません。まさに幼稚園の先生になった気分でした。そして、私はミュージカルに出会います。歌、ダンス、演技（台詞）が一体となって表現するミュージカルですが、聴覚に障害のある子どもたちにとって、どんなに練習しても音程は望めません。しかし、低音を感じてリズムを掴むことはできます。ダンスの振付で拍を感じながら、歌っていきます。台詞も身振り手振りを入れながら、演技することを楽しめます。文化祭の表現の部で披露するときはお母さんたちが衣装を縫って下さり、毎年記憶に残るステージとなりました。現天皇陛下と皇后さまが皇太子と皇太子妃時代に聾学校のプレイルームにお見えになり、ミュージカル「三匹のこぶた」をご覧いただいたのが聾学校幼稚部最後のミュージカルとなりました。

2. 創作オペラ「傾城阿波の鳴門」から全ては始まった

富岡東高校と羽ノ浦分校の兼務で、高校音楽にデビューしました。

文化推進事業で学校として取り組む事業の案を出すという指令により提出した、阿波人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」を創作オペラにして音楽部が上演するという案を当時の教頭先生がまとめてくださり、学校として取り組むことになりました。内心えらいこっちゃと思いながら、西国巡礼1番札所から、2番札所、3番札所をひたすら歩きました。歩くことで、それぞれの札所で親を探すお鶴の気持ちが歌詞となり、そのお鶴を思う母親お弓の気持ちが歌詞となっていきました。太夫の謡いを台詞にして、取手に囲まれながらも徳島に帰る決意を十郎兵衛に歌わせて幕となる創作オペラの台本を何とか仕上げました。創作だからと、敵役武太六に同心 A・B、岡っ引き八・六に飛脚そして黒衣。様々なキャラクターを登場させて、やりたい放題の台本を四国大学の増田篤志先生が作曲して下さり、楽譜が完成。初演の幕が上がり、創作オペラ「傾城阿波の鳴門」が上演された時の感動は、言葉では言い表せない感情で胸がいっぱいになりました。もう思い残すことはないと思ったのも束の間、特色ある学校作り事業、オンリーワンハイスクール事業で創作オペラを上演しながら、様々なミュージカルを同時上演し続けることとなります。「CATS」「ウェストサイドストーリー」「カルメン」「ノートルダムの鐘」「美女と野獣」「レ・ミゼラブル」「アイーダ」…。衣装は布を購入して片っ端からミシンで縫い、舞台背景はベニヤ板にペンキを塗って制作しました。ダンスも歌も夜遅くまで練習し、観客の前で上演するステージを生徒も私も思う存分楽しみました。今も劇団四季や東宝のプロの舞台で活躍する卒業生二人。私の人生の中でこんなに楽しい仕事はないと思える10年間でした。

3. 初めての部活動…吹奏楽って！？

城南高校に赴任すると決まった時、声楽の師匠である井上千恵子先生のご自宅に挨拶に伺い、もう少し小規模高でじっくり吹奏楽を勉強してから城南に赴任したかった…たぶん私の技術では吹奏楽は無理だと話したときに「歌いなさい。全て歌うことが基本。楽器も歌も一緒！」と気合いを入れていただきました。悩む間もなく、夏の吹奏楽コンクールは近づいてきました。逃亡すべきか玉砕すべきか…。私は玉砕する決意で指揮台に立ちました。初めて指揮をしたのは、「オペラ座の怪人」。結果はダメ金。それもタイムオーバー危機一髪。2年目は「ミス・サイゴン」。私の指揮で部員に迷惑をかけると思うだけで手が震え、結果は銀賞。私は吹奏楽部のある学校に在るべきではないと腹をくくった最後の年に「トゥーランドット」で金賞県代表となり、四国大会初出場。こんな私を生徒はずっと支えてくれました。当時3年だった生徒はその後音楽教師となり、今も私を支えてくれています。定期演奏会では、「サウンドオブミュージック」「オペラ座の怪人」「ウェストサイドストーリー」を合唱部と吹奏楽部のコラボで上演。吹奏楽の練習が終わった後のミュージカル練習は癒やしでした。

4. 音楽室の間取り図作成…何回したんだろう

再び聾学校に赴任した私は、小学部と中学部の音楽を担当。聾学校は準ずる教育のため、小学校1年から中学校3年までの全ての教科書で授業をする機会を得ました。高校に入るまでにこんな勉強をしてるんだと知ることができ、高校で授業をする上でとても勉強になりました。

徳島聴覚支援学校の移転に伴い、新音楽室の間取り図作成と取り壊される聾学校音楽室の片付けが最後に待っていました。しかし、新校舎には入れず、国府支援学校（2年在職）へ。

そう言えば、富岡東高校の新校舎の音楽室の間取り図作成も私でした。新校舎には入れないままでしたが…。城南高校の新校舎の音楽室の間取り図作成も私でした。ついでに古い校舎の音楽室の後片付けも…。新校舎に引っ越した時、井上千恵子先生を古い校舎の音楽室から新しい校舎の音楽室にご案内させていただきました。とても感慨深そうでした。退職する年になって、その気持ちが少しわかるようになりました。新校舎の音楽室で引っ越し祝い弁当と一緒に食べたのがついこの間みたいな気がします。

みなさん、各音楽室使いにくかったらごめんなさい！コンセプトは少しでも広い面積を確保したいでした！存在感抜群の大きな柱も取り込んで音楽室面積を広く取りました。本当は廊下だったので！

5. 勉強，部活動，進路

教師生活最後の学校となった城北高校。エレベーターのない本館5階にある音楽室…。7年在職し、なんとか退職までたどりつきました。

城北では、勉強と部活動の両立、そして進路まで寄り添うことを目標に生徒たちと向き合ってきました。若いときは部活動をするのが楽しくて、生徒たちの時間を全て部活動に向けさせていました。自分を律して勉強する生徒はいいのですが、疲れて勉強しないまま3年間で過ぎ、進路に困る生徒もいたように思います。これでは、進学課に煙たがられる（笑）

城北に赴任以来、勉強時間の確保を優先。なんとか自分の選んだ道に進学することができているようです。また、音楽教員志望の生徒が7年連続でN教大等に進学。きっとこれからの音楽教育を担う存在になってくれると期待しています。

6. さいごに

もうすぐコロナ禍で大変だった時は去り、昔の日常が帰ってきます。当たり前と思われた日々が実はとても大切に貴重な日々であったのだと今、特に感じます。

先生方、健康に気をつけて、音楽のある生活を存分に楽しんで下さい。

今後のご活躍とご多幸をお祈り致しております。

長い間、ご交誼を賜りましたことに心より感謝申し上げます。



Ⅷ 令和4年度 徳島県高等学校教育研究会 音楽学会会員名簿

会 長 向井 佳子（名西高等学校）
副 会 長 荒木 結香（城北高等学校）
学会幹事 石川 宏美（名西高等学校）

城東	井上 郁代	名西	石川 宏美
城南	和泉 康洋	名西	森本 奈央子
城北	荒木 結香	名西	上原 慎太郎
城ノ内	坂東 遥	名西	新居 誠司
徳島北	榎 一二三	川島	岸 直美 (山田 麻依子〈鳴教院〉)
徳島市立	梅本 敏行	阿波	松浦 有沙 (橋本 二千翔〈育休〉)
城西	森長 友希	脇町	北川 昌代
科学技術	東川 容子	池田	三木野 喜子
徳島商業	長町 美希	徳島視覚支援	仁木 悦子
小松島	山根 幹	板野支援	原口 絵里
小松島西	松丸 麻祐子	国府支援	今津 崇晴
富岡東	梅本 香織	国府支援	黒木 小百合
富岡西	常陸 貴生	ひのみね支援	豊田 尚子
阿南光	葉久 かおり	ひのみね支援	細井 京子
海部	大羽 恵子	みなと高等学園	吉田 美恵
鳴門	岩崎 律子	阿南支援	濱田 三貴子
板野	山本 裕子	池田支援	小谷 直也

計29校 33名

※岸 秀典〈徳島県教育委員会〉